# キワニスドール、「つくる会」
## コロナ前の水準まで回復

キワニスドールを製作する「つくる会」は、コロナ渦の影響で開催頻度が大きく落ち込んでいましたが、今年度（2022年10月～）に入って回復傾向を示し、コロナ前の2018～2019年度の水準、年間1500体（月間120体強）に戻りつつあります。

企業内で初めてドールづくりに取り組む事例も目につきます。海運業のオーシャンネットワークエクスプレスジャパン（株）では、社会貢献、ボランティア活動の一環として男女25名の社員が初めてのドールづくりに挑戦、病院で子ども達がドールを使う姿を想像し、楽しみながら綿詰め作業を進めました。（写真） 手縫いの脇綴じは、女性でも経験者が少ないため、みんな苦労していました。

三菱UFJ銀行は企画部の男女19名が社員食堂に集合し、親睦も兼ねて4人1組のグループに分かれてドールづくり。所要時間は個人差があり、15分前に出来た人、居残りで完成させた人などまちまちでした。

一方、ドールを活用する病院も広がりをみせ、東京都立小児医療センターや日本医大武蔵小杉病院など、新規の寄贈先も増えました。

# ドールをつくる会、開催広がる

## 高校生からシニアまで 企業はオンライン活用

夏から秋にかけてコロナ渦が落ち着きをみせはじめると、学校や企業で「キワニスドールをつくる会」を開催する動きが復活し、広がりを見せています。高校生、大学生からシニアまで、担い手の年齢は幅が広く、オンラインを活用して開催する学校や企業もあります。完成したドールは病院に入院している子どもたちに贈られます。（ボランティア活動委員会）

### 高校　千葉県立検見川高校

千葉県立検見川高校の生徒は男子も女子も1人1台のタブレット端末で「つくり方」の動画を見ながら、ドールづくりに取り組みました。全員初めてとあって、綿詰めも、脇を手縫いする作業も苦労しながら完成させました。手縫いがうまく出来ていないドールは指導に当たった先生がきちんと修正してから送ってくれました。

### 大学　明治薬科大学

明治薬科大学は久しぶりに対面で「つくる会」を開催、3年生以下で構成するサークルの参加学生にとって初めての体験でした。普段はインターンで忙しい4年生、5年生の先輩がこの日は1人ずつ参加。この2人はこれが3回目とあって、さすがに手際がよい。初めての学生たちも2時間できれいに綿詰め、脇綴じを終え、ドールを完成させました。

### シニア　自由学園 リビングアカデミー

自由学園のシニアカレッジ「リビング・アカデミー」では50歳以上の学生有志がドールづくりの自主活動サークルを結成しました。布の裁断、ミシン掛けから綿詰めまで“一貫生産”するのが特徴です。「仕事をリタイアして時間がある私たちにとって、こういう社会貢献の機会はやりがいがある」と月1回のペースで活動を続けています。

### 企業　[redacted]株式会社

[redacted]東京のオフィスと滋賀県の工場をオンラインで結んで「つくる会」を開催しました。工場で参加した社員は画面を見ながら、作り方の指導を受け、ドールづくりに取り組みました。オンラインシステムが整っている企業では、地域や事業所を超えてのドールづくりも可能になってきています。

## 病気の子ども「不安和らげる力」実感　キワニスドール

新型コロナウイルスで制約が続く中で、「キワニスドールは、病気の子ども達の不安を和らげる力があると実感しています」との声が病院関係者から寄せられています。

「病気の子供達が、ドールの表と裏に異なる柄を描いたり、たくさんの色を使ってカラフルに仕上げたり、楽しそうに使っています」、「小児病棟で、ドールに絵を描いて、お医者さんごっこをしています」、「ドールは幅広い検査・治療に使え、子どもへの説明する時の視覚的アプローチに最適です」といった活用例が届く。
実習で使っている看護学校からは「ボランティアの手作りということに学生は一様にびっくりして、毎日大切に使っています」などの感謝の言葉も寄せられています。

東京キワニスクラブでは、毎年1,000～1,500個を制作し、病院や看護学校などに寄贈しています。コロナ渦でも寄贈に支障を生じないように、ボランティア活動委員会のメンバーを中心に計画的にドール作りに取り組んでいます。

晃陽看護栄養専門学校

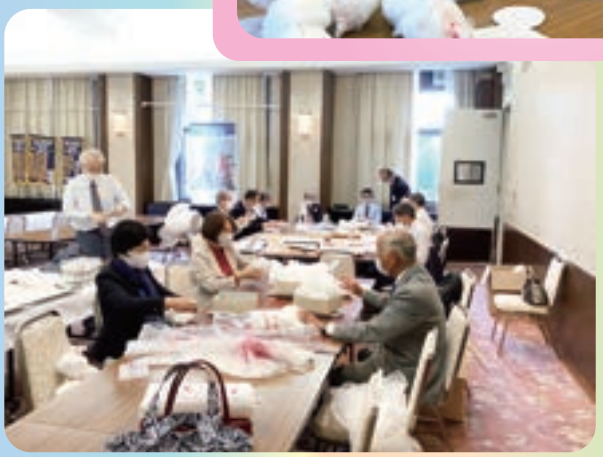
**◆ つくる会**
(株)ジェーシービー
東京家政学院高等学校

**◆ 寄贈先**
亀田総合病院
東京大学医学部附属病院
朝霞准看護学校
伊那中央病院
聖隷三方原病院
茨城県結城看護専門学校
宮本看護専門学校
秋田大学大学院
慶応義塾大学病院
晃陽看護栄養専門学校
東京慈恵会医科大学
聖路加国際病院
双葉の園保育園

## キワニスワンデー　会員でドールづくり
2020.10.16

世界中のキワニスクラブ会員がいっせいにボランティア活動に取り組む「キワニスワンデー」。東京クラブは2020年10月16日の例会終了後に、キワニスドール作りとドールのキット作りに取り組みました。会長経験者数名を含む15名の会員が参加。キット作りは、①300gの綿を50gずつに小分けする袋詰め、②厚紙切りと糊付けによる型紙作り、③ミシン掛け後裁断したテキスタイルの表返し、といった日頃馴染みのない作業にも関わらず、熱心に取り組むことができました。ドール作りはさすがに手慣れた方も多く、全体として充実した奉仕活動となりました。

（ボランティア活動委員会）



# ステイホーム期間中、活動にひと工夫

## おうちでドールづくり

緊急事態宣言が出て、キワニスの会員も長い間、ステイホームを余儀なくされ、日ごろの活動が続けられなくなりました。そこで自宅でできる活動に知恵をしぼり、ひと工夫しました。

キワニスドールづくりは通常、大学・高校や企業などで多人数が一緒に作業していましたのが、これに代わる「おうちでドール」活動に取り組みました。人形の形に縫った布と綿を宅配便で送り、会員が自宅で5体の人形の綿詰め作業を進めます。初めてドール作りに挑戦する会員、連休を利用して夫婦でつくった会員もいて、「新しい日常」におけるボランティア活動のヒントにもなりそうです。

# キワニスドールを作る会

病気の子ども達の不安を和らげるため、キワニスドールを制作贈呈しています。
(子ども達に好きな絵を描いてもらい、治療の説明の時などに使用します。)

千葉県立検見川高等学校

明治薬科大学

## キワニスドール、みんなでつくる

| | |
|---|---|
| 10.5 | 都立荏原看護専門学校 |
| 10.19 | 大妻中野高等学校 |
| 10.24 | 明治薬科大学 |
| 10.28 | 東京こども専門学校 |
| 10.30 | LIXIL |
| 11.02 | 慈恵会医科大学看護学科 |
| 11.7 | 東京家政学院高等学校 |
| 1.10　1.21 | 千葉県立検見川高等学校 |

## 入院中の子ども癒す(寄贈先)

千葉県こども病院
独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）
東京新宿メディカルセンター
秋田大学大学院医学系研究科
東京共済病院
信州大学医学部附属病院
自治医科大学附属病院
ベルランド総合病院
群馬県立赤城特別支援学校
宮本看護専門学校
双葉の園保育園
秋田大学大学院
和洋女子大学
順天堂大学附属順天医院
聖隷三方原病院
福井県済生会病院
国立がん研究センター
船橋市看護専門学校
癌研有明病院
東京大学医学部附属病院
調布城山保育園
東京女子医大病院

# キワニスドールで「作り手」も「もらい手」もニッコリ

## キワニスドールフェスティバルin大手町パソナ　2019.7.6

キワニスドール寄贈先病院、ボランティアのみなさんなど、総勢約110名もの参加者が集いました。ご参加下さった皆様、ありがとうございました。ドールを活用したい医療機関やご家族の皆様、お気軽に事務局へご相談下さいませ。

（ボランティア委員会）

**<第一部 トークセッション>**
地域医療振興協会の地域看護研究センター・センター長　朝野春美さん
「とちぎ子ども医療センター」における様々なドール活用の事例。

「エドワーズライフサイエンス（株）」社長室・藤原ベティさん
「キワニスドールつくりの意義や社員の意識の変化」について。

**<第二部　ドール作り体験>**
白いドールができあがると、みんなニッコリ。

誰もが笑顔に！

# キワニスドールを作る会

病気の子ども達の不安を和らげるため、キワニスドールを制作贈呈しています。
（子ども達に好きな絵を描いてもらい、治療の説明の時などに使用します。）

つくる会
6.8　田園調布学園家庭部
6.14　東京医療学院大学
6.15　金平糖
6.28　フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社
8.20　株式会社三菱UFJ銀行
9.3　9.5
エドワーズライフサイエンス株式会社
9.11　BNPパリバ証券
9.12　ギャップジャパン

寄贈先
群馬パース大学福祉専門学校
茨城県立中央病院
金沢医科大学病院
聖隷三方原病院
文京学院大学
日本大学病院
聖路加国際病院
東京大学医学部附属病院
Hoop Tree
荏原看護専門学校
近江八幡市立老蘇小学校
大阪医科大学附属病院
国立特別支援教育総合研究所

エドワーズライフサイエンス株式会社

BNPパリバ証券

ギャップジャパン

株式会社三菱UFJ銀行

フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ株式会社

# キワニスドールを作る会

病気の子ども達の不安を和らげるため、キワニスドールを制作贈呈しています。
（子ども達に好きな絵を描いてもらい、治療の説明の時などに使用します。）

2.8　東京医療秘書福祉専門学校
2.19　東京こども専門学校
2.27　3.1　3.4　3.5　大妻中野高等学校
3.12　アストラゼネガ株式会社
3.22　西松建設株式会社・戸田建設株式会社
5.18　田園調布学園土曜プログラム
5.23　株式会社ジェーシービー

新規寄贈
3.26　独立行政法人地域医療機能推進機構（ＪＣＨＯ）東京新宿メディカルセンター

東京医療秘書福祉専門学校

株式会社JCB

アストラゼネガ株式会社

東京新宿メディカルセンター

西松建設株式会社・戸田建設株式会社

## キワニスドールフェスティバル

**日時：2019年7月6日（土）　13:30～**
**会場：パソナグループ**
**JOB HUB SQUARE（大手町・日本ビル）**
**2階 ホール**

キワニスドールをつくる会開催企業・学校のボランティア・寄贈先医療機関、そしてキワニスクラブの会員が一堂に会し、交流を図る機会です。是非ともご参加ください。
お申し込みは東京キワニスへ（6/28〆切）

# キワニスドールつくり講習会 2019.3.15~4.19

　会員・家族を対象に、「ドール作りスキルアップ」講習会を複数回実施しました。作るだけでなく、企業や学校における講師役など、病気の子どもたちを癒すキワニスドールの輪を一段と広げてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくご協力お願い申し上げます。

（ボランティア活動委員会）

# キワニスドールを作る会

各地でキワニスドールを作る会が開催され、沢山のキワニスドールが出来上がりました。ドールたちはお友達のところに行き、世界でただ一つのお人形になる日を楽しみにしています。

（ボランティア活動委員会）

株式会社LIXIL

10.6 荏原看護専門学校祭
10.16 エドワーズライフサイエンス株式会社
10.20 田園調布学園土曜プログラム
10.27 慈恵会医科大学医学部看護学科学生祭
10.29 株式会社LIXIL
11.1 東京家政学院高等学校
11.12 アストラゼネカ株式会社
11.13 エドワーズライフサイエンス株式会社
11.17 田園調布学園土曜プログラム
11.22 明治薬科大学
11.29 武蔵野女子学院高等学校
12.7 目黒星美学園
12.19 JPモルガン
1.9　1.21 千葉県立検見川高等高校（金平糖）

エドワーズライフサイエンス株式会社

千葉県立検見川高等学校（金平糖）

明治薬科大学

# キワニスドール無料配布（第22回 日本医療保育学会）　2018.6.24

病弱教育の第一人者、横田雅史教授（帝京平成大学）から、全国の保育士 300 人が集まる学会でキワニスドールを配布してはとご提案下さいました。以前手掛けたドラマで院内学級の監修をしていただいたご縁です。

6/24「日本医療保育学会」（同大学・池袋キャンパス）。ボランティア活動委員会の中村禎良会員を中心にドール 100 体無料配布を開始。「初めて本物を見ました」、「10 年前に手に入れて、新しいものがほしかった」、「ドールフェスに参加したい」など大好評。実は前日にドールについて学術報告があり、興味を持った方も多いそうです。おかげで午前中には配布終了。ドールづくりコーナーも学生たちに人気でした。

後日（8/31）、横田先生には卓話で「病気の子どもの教育～今、私たちにできること～」と題しお話いただきました。先生曰く、教育や福祉は Cure できなくても Care ができる、と。キワニスの活動の重要性を再認識した次第です。

（広報委員長　内丸摂子）

# （株）ジャックス「キワニスドールをつくる会」　2018.3.10

今回の「キワニスドールをつくる会」は、社会貢献推進活動に積極的に取り組んでおられる（株）ジャックスの皆さんが、社員の方とそのご家族向けに第１部「キワニスドールをつくる会」第２部「小澤綾子講演ライブ」という形で企画されたもので、３月 10 日、恵比寿のジャックス本部で開催されました。

参加者はご家族の方々を含め約 50 名、この中には 10 名ほどの小学生年輩の子どもさんが混じっていたところが目立ちます。今回はドールづくりのなかでも、綿詰めとくけ縫いの工程が対象となっていましたが ―― 子どもさんたち、うまくできるかな？？・・・心配御無用、お父さんお母さんと一緒に一所懸命に綿詰めをして、上手にできあがると顔が充実感にピカピカと輝いていました。中には、積極的にくけ縫いに挑戦したお子さんもいました。う～む、大したものです。

なお、第２部の「小澤綾子講演ライブ」についても、ご紹介をいたします。小澤さんはご自身進行性筋ジストロフィーを発症されていますが、協力するアーチストの方々ともに全国で「筋ジスと闘い歌う」活動を行っているアマチュアミュージシャンです。今回は、「つくる会」に赴いたキワニスのメンバーも講演ライブに参加させていただき、手拍子を取り声を合わせて歌い感動を共にすることができました。本当にありがとうございました。

（ボランティア活動委員　菅野良三）

# キワニスドールをつくる会　10月から1月までの報告

## エドワーズライフサイエンス社「キワニスドールをつくる会」　2017.10.26

　エドワーズライフサイエンス社は米国系の医療器具製造企業で、今年度初めてキワニスドールづくりに参画することになりました。同社はSOC（Strengthen Our Community）と称するボランティア活動を社員に積極的に勧奨しており、キワニスドールづくりもその一環として社長室と広報室のスタッフをリーダー格に意欲的に取り組んでおられます。

　10月6日と31日に東京支店、24日には東京本社でと、短期間に集中的なドールづくりが企画され、それぞれに当クラブからスタッフが訪問して綿詰めとくけ縫いの指導を行いました。社員の皆さんの真摯なドール作りの姿勢には大変感銘いたしました。また、女性のみならず男性社員も見事な綿詰めとくけ縫い技術を駆使して素晴らしいドールを完成させていたことも印象的でした。

同社では 11・12 月にかけて大阪・名古屋・福岡の地方支店でもドールづくりを開催する予定ですが、これには東京で訓練を受けた同社のベテランスタッフが指導に赴き、今回、全国で約 100 体のドール作成を目指すということです。
このようにキワニスドールづくりの輪が着実に広がっていることは力強い限りです。
キワニスクラブとしては、引続き、真に子ども達に喜んでもらえる質の高いドールづくりを普及させる重要性を再認識して取り組んでまいりたいと思います。

（事務局長 細田久雄）

## SAS Institute Japan「キワニスドールをつくる会」 2017.11.28

2017 年 11 月 28 日（火）10:30 ～ 15:30、六本木ヒルズにある SAS Institute Japan のオフィスで、はじめて「キワニスドールをつくる会」が開催されました。
この日を SAS ではワールドワイドでボランティア活動を行う日にされており、日本法人では、いろいろなボランティアの中から「キワニスドールづくり」を選んでくださったそうです。
社員の皆さんは、仕事の合間に会議室まで来て、会員のアドバイスのもとに綿詰めから脇綴じまでの工

程を実施。おひとりで 3 個も作られた方がいる等、とても熱心に取り組んで下さり、終わってみれば 40 個以上のすばらしいドールが完成していました。ご参加いただいた社員の皆さんも楽しんでドールづくりをされたようで、完成したドールと一緒に笑顔で記念写真を撮られていました。

キワニスドールをつくる会は、年間 30 回以上開催していますが、年間 1,000 個以上のキワニスドールを多くの医療機関等に寄贈しているため、一つでも多くのキワニスドールが必要です。キワニスドールをつくる会の活動を実施していただいている企業には心より感謝申し上げます。

（ボランティア活動委員長 田口徹）

## J.Pモルガン　キワニスドールを作る会　2017.9.5

９月５日夕刻５時から東京駅丸の内側南口にほど近い東京ビルディングにある J.P モルガンにて初めてキワニスドールを作る会が開催されました。お集まりいただいた社員のボランティアの方々は、総勢 49 名と大変盛況な会となりました。東京クラブからは中田元ガバナーを始めとしてボランティア活動委員会の面々８名がお手伝いに参上いたしました。まず、中田元ガバナーからキワニスクラブについてその歴史からキワニスドールを作るようになった経緯が話されました。引き続きドール作成のビデオを見てもらい、星会員から良いドールを作るためのコツが説明されました。そして実際に社員の方々に綿づめと脇閉じを体験してもらいました。国際色豊かな社員の方々に熱心に取り組んでいただいた結果、とても抱き心地が良くて質の高いドールが多数完成いたしました。ご参加いただいた社員の方々の評判も上々で、また参加したいとの声が多数寄せられているとのことです。

（吉田浩二会員）

## キワニスドールを作る会…6月から9月までの報告

６月～９月は、キワニスドールをつくる会を５回開催しました。昨年 10 月からの１年間では 26 回開催し、そのうち４回がはじめての企業や学校によるものです。

９月に開催した JP モルガン証券は、今回がはじめてでしたが、いろいろなボランティア活動の中から、CSR の取組みの一環としてキワニスドールをつくる会を実施することに決めたということです。オフィスのある東京ビルディングの会議室からは、眼下に東京駅を望むことができ、鉄道ファンにはたまらないロケーションです。当日は約 50 名が参加されて、一つひとつ丁寧にドールを仕上げてくださいました。今後も継続的にキワニスドールをつくる会を実施していきたいということでした。

目黒星美学園は、昨年と同様、９月の学園祭でのキワニスドールづくりです。主催は同校のボランティアクラブのアグネス会。前日までは台風の影響が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、賑やかな学園祭となりました。アグネス会のブースには、小学生からシスターまで約 20 名が訪れ、慣れない手つきながらも、一生懸命キワニスドールを作ってくださいました。

この１年間に、企業や学校からキワニスドールづくりのボランティア活動に参加していただいた方は約 1,000 名、作成したキワニスドールは約 1,300 個にのぼります。寄贈先の医療機関は 49 施設で、作成数とほぼ同数のキワニスドールを寄贈しました。

ボランティアの顔は、キワニスドールを使う子ども達には見えません。ボランティアの中には、キワニスドールに手紙を付けて子ども達を励ましたいという方

もいらっしゃいますし、医療機関の声を知りたいという方もいらっしゃいます。キワニスドールの作り手と使い手の交流は、年１回のキワニスドールフェスティバルだけですが、双方が継続的に繋がる仕組みができないか考えている最中です。手始めに、医療機関にキワニスドールを寄贈するときに、アンケートを添付するようにしました。多くのアンケートが返ってくれば、ボランティアの皆さんに医療機関の声をお伝えできるようになると思います。

キワニスドールをつくる会は、つくる会への参加だけではなく、綿分けなどの事前準備もあります。そして、これらは会員のご協力によって成り立っています。綿分け、アイロンがけ等少しの時間でも結構ですので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（田口ボランティア活動委員長）

# 西松建設・戸田建設ドールをつくる会　2017.3.10

3月10日、西松建設と戸田建設合同による第1回のキワニスドールをつくる会が開催されました。両社は、平成11年から業務提携関係にありますが、CSR活動では初めてのコラボレーションということでした。CSR担当役員を含めて両社合わせて約30人の方々が参加され、お互いに自己紹介をしたり、情報交換をしたりしながら、和気藹々の雰囲気の中でドール作りを楽しんでいただきました。お手伝いする我々も企業提携という大きな背景の中で両社合同でワニスドール作りが行われたということに、いつもの活動とは一味違ううれしさもありました。

西松建設、戸田建設ともキワニスドールの会は今回が初めてですが、ここ数年このように企業でのキワニスドール作りが増加しております。企業を取り巻く環境の変化の中で多くの企業が CSR 活動に力を入れ始めており、その対象として、手軽で社会貢献の実感が持ちやすい活動として注目されているからでしょう。昨年度、東京キワニスクラブが開催した「つくる会」は 31 回を数えますが、

そのうち企業での回数が 11 回になっております。これからも企業からの「つくる会」開催の要望は増えてくるものと思われます。会員の皆さんの一層の協力をお願いいたします。

（中村禎良ボランティア活動委員）

# ウエルズファーゴ銀行東京支店ドールをつくる会　2017.6.8

２０１７年６月８日（木）１８時からウエルズファーゴ銀行東京支店様で４回目の「キワニスドールを作る会」が開催されました。２０１５年１２月１５日に第１回が開催され、それ以降、毎年６月、１２月に開催され、今回が第４回となりました。

ウエルズファーゴ銀行東京支店様のボランティア活動として、支店内の有志の方々が、今回は１２名（第１回（１７名）、第２回（１６名）、第３回（９名））参加されました。全員が過去に参加された経験があり、２回目の方々が２名、３回目の方々が４名、４回目（毎回参加）の方々が６名でした。キワニスドール作成はウエルズファーゴ銀行東京支店様の２４階の会議で実施され、窓のブラインドを上げていただくと、八重洲、丸の内が一望できる絶景でした。

経験者の方々と言うことで、早速キワニスドール作成に取り掛かりました。冒頭、星会員から、「最終的な品質の判断はドールを使う子ども達であると言う認識を持っていただき、

今日はそれらの子ども達が満足するような良いドールが作成されるよう、厳しく評価しますので、宜しくお願いします。」との言葉から始まりました。

作成の過程で、皆様は積極的に、星会員、高橋会員にアドバイスを求められ、両会員も時には厳しく、時には優しく指導され、子ども達が喜ぶ顔を思い浮かべながら、和やかな雰囲気の中、集中して作成していただきました。

１８時から開始し、１９時４５分までに１２名の方々で、２４個のキワニスドールを作成していただきました。終了後、記念撮影を実施。次回のキワニスドール作成を楽しみに、更なる技術の向上を目指したいとのお話をいただきました。東京キワニスとして、継続してキワニスドール作成を実施していただける方々を増やしていく活動が重要であると改めて認識した１日でした。

（雲類鷲孝ボランティア活動委員）

## キワニスドールをつくる会報告

昨年 10 月～今年 1 月は、15 回のキワニスドールをつくる会を開催しました ( 東京キワニスクラブのホームページ・トップ画面にも、キワニスドールをつくる会の毎月の開催状況を掲載しています )。
例年 1 月は、ドールづくりを授業の一環として取り組んでいる大妻中野高等学校が、1 年生全クラスでドールづくりをするので大忙しです。大妻中野高等学校では、綿詰めだけでなく、2 時間の授業の中で型取りから、裁断、ミシン縫製、アイロン掛け、綿詰め、口綴じまでの全工程を実施します。手際の良い生徒ばかりではなく、じっくり型の生徒もいますが、心のこもったドールが 200 個以上完成しました。

荏原看護専門学校は学園祭での開催でした。主催は何とキワニス同好会。キワニス同好会があったとは！ 当日はあいにくの雨でしたが、徐々に来場者が増え、教室はほぼ満席状態に。ほとんどの来場者はドールをご存じない方でしたが、子どもたちへの思いを込めてドールを作ってくださいました。

企業では MSD 等 4 社で開催しました。MSD は、新入社員研修にもドールづくりを取り入れている熱心な企業ですが、社員にとても好評なので、全国の営業所でもドールづくりを実施したいとのご要望がありました。せっかくのお話なので、今後は、営業所のドールづくり指導者育成講座の開催等もご協力していく予定です。

年間 1,500 個以上作成しているドールですが、ドールづくりの輪は着実に広がっています。今年は、新たに西松建設、戸田建設からも、ドールをつくる会を開催したいとのお申し出がありました。CSR の一環としてさがしていたところ、キワニスドールの取組みをみつけられたそうです。3 月に、2 社で合同のドールをつくる会を初開催する予定です。

ドールをつくる会は年間 30 回以上開催しています。お時間があるときに是非ご参加ください。心よりお待ちしております。

（田口ボランティア活動委員長）

事務局で、ドールの綿分けと布切にご協力いただいています。

## 総社市の清音クリニックからキワニスドールのお礼のお手紙をいただきました。

先日は、キワニスドールを 2 個送って頂き、ありがとうございました。
当クリニックのキワニスドールが完成しましたので、お礼とともに報告させていただこうと思います。

私は、このクリニックに就職し、初めて小児科に勤め、「プレパレーション」という言葉を学びました。注射や点滴、日常の診察いろいろなものに対し、子どもにも「心の準備」の時間を設ければ、納得し、受け入れ、スムーズに診察・処置に臨めることができるというものです。

絵を見せたり、お話をすることで納得するものもありますが、なかなか受け入れがたいものに、注射と点滴がありました。そこで、キワニスドールの存在を知り、これを点滴や注射のプレパレーションに活用できないかと考え、請求させていただいた次第です。

届いたキワニスドールの第一印象は、肌触りがよく、触っていて気持ち良いと感じました。同封の資料を読み、1 個 1 個、いろいろな人が想いをこめて手作りされていて、驚きました。想いのつまったこのドールを、上手に生か

そうと思えば思うほど、顔を描くにも緊張しました。服は、同僚が昔、自分の赤ちゃんのために編んだものを譲って下さり、素敵なドレスを着ることが出来ました。腕のグリーンのゴムは、当クリニックの駆血帯と同じ色のゴムです。注射器は、怖くないように、先の丸いオモチャの注射器です。

処置の前に時間を作り、これから行う治療の説明を、本人とご家族にします。その際に、このドールに緑のゴムをくくり、こうやってするんだよ。少しチックンと痛いけど、頑張ろうねと声をかけます。準備の間、このドールに注射をしたり、ごっこ遊びで遊んで待ってもらいます。その間に、年齢にもよりますが、本人の受け入れができるようです。

キワニスドールの存在を知り、出会えたことに感謝いたします。

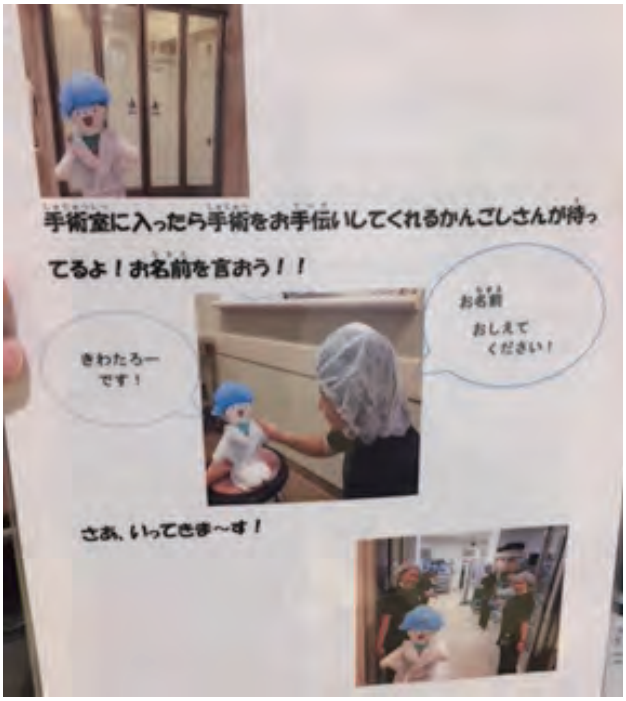
末永く、愛用させていただきたいと思います。

（清音クリニック　スタッフ一同）

## キワニスドール寄贈先訪問記　2017.1.30

1 月 30 日、キワニスドールをご希望された日大病院と東京女子医大病院に、狩野会員とともにドールを持参しました。医療機関からドールのご希望があると、事務局から宅配便でお送りするのですが、ボランティア活動委員会で協議し、今期は医療機関との関係構築及びコミュニケーション強化のために、できるだけご訪問するようにしました。

日大病院小児科からは 110 個のご希望です。1 か月に 10 ～ 20 人の子ども達にドールを提供するので、これだけあっても今年中には使い切ってしまうのだとか。看護師長と保育士の方からはドールについてこんなお話が…。「子ども達にドールを渡して、自由に絵を描いてもいいよと言うと、( 人形に悪戯描きすると ) 怒られないかな？と思うみたいで､みんな驚くんです｡」「絵を描いたドールは、その子にとって特別な存在みたいで、あやしても泣き止まなかった子が、ドールを渡すとピタリと泣き止むんですよ｡」




また、プレパレーションでもドールは活躍していました｡「医療処置について言葉で説明してもわからない小さな子ども達には、ドールを使って事前に治療内容を説明し、理解してもらい…」と説明を聞きながら、実際に使用しているプレパレーションドールと説明資料の写真をよく見ると、ドールには「きわたろー」という名前が？？（フォト参照）

次にご訪問したのは東京女子医大病院がん相談支援センターです。ご対応いただいた看護師とソーシャルワーカーの方によると、親ががんになった子どものサポートプログラムで、今回はじめてお使いになるとのことです。がん治療中の親を持つ子ども達が集まって、お互いの状況や気持ちを伝えあうグループワークの中で、ドールに絵を描いて少しでも楽しい時間を過ごしてほしいというお話でした。

今回の寄贈先への訪問を通して、白いシンプルな人形が、子ども達ひとり一人のオリジナルなドールやプレパレーション用のドールになることによって、子ども達の心の支えになったり、医療関係者と子ども達の心を通わせるコミュニケーションツールとなることを改めて実感しました。

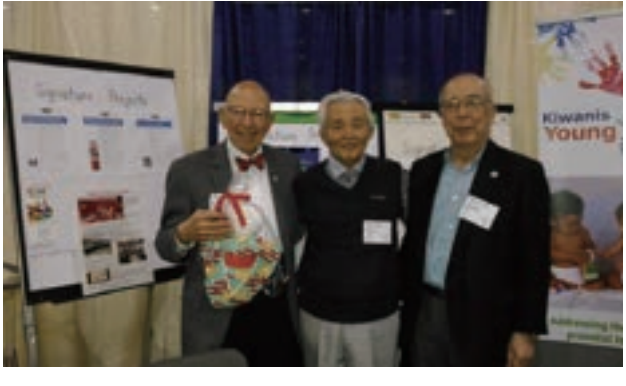
キワニスドールの作り手の想いと、使い手の気持ちが繋がるように、これからも取組んでいきたいと思います。

（田口徹ボランティア活動委員長）

# 国際キワニス年次総会に参加してのキワニスドールつくり

カナダトロントでのキワニスドールつくりは本当にビックリ・ポンでしたが、その経緯・結果を話します。

東京キワニスクラブとラフィエットクラブの姉妹クラブ締結の話の中で、キワニスドールが話題となり、ドールの見本を届けました。そのドールに地域の病院が大きな関心を示したので、ラフィエットクラブとして本格的に取り組むことになったそうです。それで実際のドールつくりの指導・助言をしてほしいとの要望があり、トロントでの国際大会に双方の会員が参加し、時間を融通し



てドールつくりをすることになりました。

事前に東京側は英文マニュアル、綿詰め用ドール、ラフィエット側は綿、その他小物を準備し持参しました。

ドールつくりは初めに基本的な考えの説明後、実際の綿詰めを実演するデモンストレーション。会員の綿詰め作業はステップごとにチェックする案で考えましたが、時間の都合でデモンストレーションは取りやめ、実物で出来のよいドールは綿が均等に詰められており、頭部を軽く支えるだけでちゃんと立つことを示しました。

次に均質に詰めるには２点注意すること。第１点は綿をとにかく細かく千切って見かけの容積を増やすこと、第２点は千切った綿を狭い開口部から入れるときに丸めて入れ、強く押して詰めないことを強調し、綿詰作業にかかりましたが、和気あいあいでスムーズに進み、脇とじも経験者が２人おられ無事完成しました。綿の繊維が太目で少しゴワゴワした感じでしたが、良い出来ばえでした。

その後ラフィエットに戻ってから３０名以上の会員でドールつくりをされたとのメールが届きました。初めてのことで苦労されたようですが、素晴らしいことです。遠くまで行った甲斐がありました。

（星利樹ボランティア活動委員）

# キワニスドールつくりに初めて参加をして　2016.7.10

昨年から、一度キワニスドールつくりに参加をさせて頂きたいと思っていたところ、今回良い機会に恵まれ、初参加をすることができた。主役は、キワニスドールつくりを目指してやってこられた学生さんや企業の方々であり、当方は、まずは、暗闇で目を慣らすように、さてどこに座りどうふるまえば良いのか慎重に滑り出す。

大部屋の壁際に座り、全体のご挨拶や進行を見つつ、少しずつ中に入り、中ほどのテーブルの空いている席を見つけ、さていよいよドールへの綿づめに取り掛かる。まずは、見よう見まねで、綿を千切り詰めていくが、どうも自信がない。隣の方に如何なものかと聞いてみると、お隣様は、今回が二回目の女性で、私も自信がないと言われつつも、なかなかの腕前。当方も、それを真似しつつ形を作る。仕事をてきぱきと早くやることには日頃から慣れているが、どうも、ドールへの気持ちの入れ方と、そのための丁寧さが足りないのか、自分にも雑な作品のような見栄えに見える。その時、キワニスのベテランの

諸先輩が回ってきて頂き、綿の千切り方が足りず、足や手の曲りが滑らかでないとのご指摘を頂き、再度綿を取り出し、丁寧に千切って綿づめを再度行い、ふっくらと

した心のこもったキワニスドールが出来上がっていく。この暖かいご指導には、流石にキワニスの先輩方のスピリットが身を以て伝わってくる。これこそ初参加をしてよかったという貴重な体験であった。

ミシン縫い、アイロン掛けまで試してみようと試みたが、ミシン掛けで、時間が来てしまった。ミシン掛けは、日頃ミシン掛けをしたことがない当方にとっては、キワニスドール初参加の前に、そもそも、ミシン道具利用初参加であり、まっすぐ縫ったり、うまく回転させたりは、なかなかのハードルであった。加えてミシンの調子が悪く、丁寧に教えて頂いた先輩からは、ミシンが良くないので、しょうがないですねと、優しいお言葉で、当方の

能力不足に触れずに対応をしていただいた。こちらも感謝する次第である。

　というわけで、キワニスドール初参加は、暖かな雰囲気のなかで、大変にありがたい経験であった。最後に、学生さんの写真撮影にも参加させて頂き、初参加とは思えない表情で写真に写らせて頂いた。貴重な土曜の午後の経験に、心より御礼申しあげたい。皆様、ご苦労様でした。

（中井毅国際委員長）

# キワニスドールをつくる会報告

ボランティア活動の広がりを受け、キワニスドールづくりに対する関心が増えており、2~5 月も、ジャックス、MSD、JCB 等の企業のほか、すでに授業の一環に組み込まれている田園調布学園にも、キワニス会員やボランティア活動に取り組む学生等が手分けして参加し、ドールづくりを指導、サポートした。特に JCB においては、本部でのドールづくりの模様が、主な支店にも同時放映され、関心の高さが窺えた。

なお、ドールづくりに対し最近寄せられた参加者の感想は、いずれもすこぶる好意的なものが多い。特徴的なものをまとめると概要次の通りである。

①キワニス活動については、「全く知らなかった」とする人がほとんどだが、ドールづくりについて、「オーストラリアで始まった活動が世界中に広まっていることは素敵なことであり、もっと沢山の人にこの活動を広めていくことが大切」、「お金の寄付というような奉仕活動とは異なり、人の手で、心を込めてつくった人形をプレゼントすることは素晴らしい」との評価。

②ドールづくりの目的等については、「入院している子ども達は、想像をはるかに超える不安と闘っており、この人形が、その子ども達に与える勇気や希望は計り知れないものがある。本当に素晴らしいことであり、自分自身も貴重な経験をすることができとても嬉しかった」との声が圧倒的。

③実際の作業については、「作る前は、ただ綿を詰めるだけだから簡単と思っていたが、手、足、頭、胴体に均等に綿を分けて詰めるのが、とても大変だった」
（たかが綿詰め、されど綿詰め）。

④会員に対しては、「クラブの会員の方々が優しく丁寧に教えて下さり、感動した」が、「クラブの方々の優しい思いが病気と闘っている子ども達にきちんと届いてい

るようで、とても幸せな気持ちになった」。「これから先、自分も積極的にこの“幸せの連鎖”をつなげるお手伝いをさせていただきたいと思った」との声も。
⑤ピンバッジについて、高校生が、「学校の制服につけていることで、誇らしく感じる」とし、また MSD では、5 回目の参加で黄緑色のピンバッジを手にした社員の方が、「できるだけ多くの社員にドールづくりを広めたい」との前向きな気持ちを披歴、ドールづくりのすそ野が徐々に拡がっていくことを実感した。

（片山仁志ボランティア活動委員長）

## キワニスドールをつくる会に参加して　2016. 2. 20

2 月 20 日、恵比寿のジャックスで開催されました「キワニスドールをつくる会」に初めて参加しました。東京キワニスクラブのメンバー 5 名と指導員 2 名のほか、約 70 名の社員及び家族の方々が来られました。今回私たちがチャレンジしたのは、ドールづくりの全工程 ( 型取り、裁断、ミシン縫製、裏返し、アイロン掛け、綿詰め、口綴じ等 ) のうち、最後の 2 工程である綿詰めと口綴じでした。

まず自分の両手と作業机を入念に消毒したあと、配布された綿を 5 つの束に分けます。次に各々の束を更に細かく分けて (50 ピース前後) いきます。これが終了すると、割り箸を使ってドールの両足、両手、頭部、胴体の順に左右のバランスや頭部の傾斜などに注意しながら綿詰めを進めていきます。最後の口綴じでは、老眼鏡を持参していかなかったため、糸通しなどで苦労しましたが、指導員の方々の支援もあり何とか時間内に完成させることができました。

今回の工程のポイントとしては、

1 作業台を有効に活用して、綿の分け方はできるだけ細かく均等に行う。
2 最初に行う足の綿詰めは全体のバランスを考え、詰め込み過ぎないよう注意する。

の 2 点を挙げることができます。ポイントさえ押さえれば決して難しい作業ではありませんので、最近入会されてまだドールづくりを体験されていない方々も、一度参加されてみてはいかがでしょうか。

（新木資明会員）

# 「キワニスドールをつくる会」報告　2015.10~2016.1

昨年 10 月から 1 月にかけて、以下の学校、企業等の要望を受け、ボランティア活動委員会の委員を中心に会員が手分けして参加するほか、ボランティアグループのメンバーの支援も頂いて活発なドールづくりが実施されました。特にこの時期、学校の授業カリキュラムの中で毎年ドールづくりに取り組んで頂いている大妻中野高校においては、4 日間、延 12 時間、232 名の高校生に対し、18 名の会員等が指導にあたり、愛情が込められた多くのドールが作製されました。

10 月　田園調布学園、広尾看護専門学校　身延山高等学校、荏原看護専門学校

11 月　田園調布学園、東京家政学院、東京こども専門学校

12 月　ウエルスファーゴ証券、JCB、茨城北西看護学校、MSD 妻沼工場

1 月　大妻中野高等学校

これまでもそうでしたが、ドールづくりに参加された方々が、異口同音にドールづくりを通じて、「子ども達のため」であることもさることながら、それに参加している「自分自身に満足感が感じられる」との感想をもたれておられるのが印象的で、今後さらなるニーズの広がりが予想されます（注）。皆様方の積極的なご参加をお願いいたします。

なお、ドールを自分たちのペースでグループ作製したいが、どうすればよいか、との申し出をいくつか頂いています。今後、会員以外の「指導員」制度を通じて、ドールづくりの輪を拡げていくことも視野にいれていく必要性があるのではないか、との議論を委員会において重ねているところですが、皆様方のご意見を是非頂きたいと思っております。

（注）昨年 10 月には、特定非営利活動法人サービスグラント（小林事務局員）から、企業 CSR と連携するボランティア活動の実情（工夫、負担、効果等）について、詳細なヒアリングがありました。キワニスクラブのドールづくりの取組みが広く認識、評価される方向にあることを実感しました。

（片山仁志ボランティア活動委員長）

# キワニスドールをつくる会の準備について

キワニスドールをつくる会を開催する前の準備として、布きり、綿わけ等、会員各位にご協力いただいております。

ここで陰の力をご紹介させていただきたいと思います。

小野洋一郎会員は休会中ながら、時間調整と言って事務局にお立ち寄りくださり、反物からドール 1 個分の布に切ってくださっています。

吉江誠会員、磯田壯一郎会員、吉田浩二会員、田口徹会員は 500g の綿を 50g ずつに分けて下さっています。そして、綿を小さく袋詰めしていただくと、送るときに大変便利です。

棚澤青路会員は一回に 200 枚ほどの表替えしとアイロンかけを引き受けてくださっています。表替えしは細心の注意が必要で、アイロンかけは体重をかけないと、綺麗に仕上がらないという大変な作業です。

いつもドールをつくる会にご協力くださっている星利樹会員、高坂和夫会員はドールをつくる会終了後にドールの出来上がり具合をチェックしてくださったり、脇とじをして完成させてくださったりしています。

他にも多くの会員・家族・ボランティアの皆様にご協力いただき、滞りなくドールをつくる会が開催できることを感謝しています。

1 時間でもお時間が空いたときには事務局にお立ち寄りいただき、ドールづくりの準備のご協力をお願い申しあげます。

（ボランティア活動委員会）

# キワニスドールをつくる会報告

○さる7月18日(土)午後1時半から4時過ぎまで、当クラブが主催して、(株)パソナのご厚意により、本社の広い会場において、「小さな天使」を楽しくつくる会を開催しました。5月16日(土)のシンポジウムの際の予告や古屋副会長や狩野事務局長のご尽力による大手新聞、テレビ関係の広報・取材の影響もあり、初めてドールづくりを経験される方の参加が多く、またベトナムからの留学生や家族連れも含め当初の予想をは

ジャックス　9/7

るかに上回る100人にのぼる多くの方々に参加していただきました。

吉田会長の挨拶のあと、所狭しとなった会場を区分けし、ミシン掛け、アイロン、綿詰め、脇綴じの各コーナーでボランテイア委員を中心に多くのキワニスメンバーが指導員となり、「ワイワイ楽しく」ドールづくりに熱心に取り組まれました。

「たかが綿詰め、されど綿詰め」の難しさを実感しつつ、愛情を注ぎ作り上げた天使を抱きしめた後、子どもさんが元気になるためにお役にたてる喜びを感じつつ、皆さん、旅立つ天使に名残を惜しんでおりました。

初めて参加された東京子ども専門学校の尾島講師から、北里委員との交流の中で、「心温まる清々しい体験でした。試練を負った子どもたちのために、心身を遣うことにより自分自身が育てられている、力づけられていると感じました。今後ドールづくりを正式授業に取り入れたい」との感想が寄せられたほか、(株)ジャックスやウエルスファーゴ証券等からも、今回の経験を踏まえ、今後会社のボランテイア活動に是非とも取り入れたいとの強い要望が寄せられております。

最後に吉國副会長の挨拶をもって閉会しましたが、連休の初め酷暑の中、大勢の方に参加頂きましたことに感謝するとともに、学校、企業の他に一般の方からも「次回はいつですか？」の質問が多く寄せられるように、こうした機会を催すたびにドールへの関心が高まるのを実感し嬉しく感じますが、今後そうした期待にクラブとしてどう取り組んでいけばよいか、多くの宿題も頂いたように思えました。

なお、6～9月のドールをつくる会は、上記の他、以下のような各学校、企業に委員が出向き、指導をいたしましたが、特にこの期、東京医大霞が浦看護専門学校やMSD名古屋工場に委員が手分けして遠征しました。今回初めてのMSD名古屋工場では、両親と小さい子どもの組み合わせによるドールづくりの企画で、品質の面を含め指導面ではそれなりに苦労はありましたが、終始笑顔溢れる熱気に包まれた中で、参加者から「子どもが子どもさんを思いやる優しい気持ちを抱くようになった」といった感謝の言葉を多くいただき無事終了しました。

6～9月のドールをつくる会

6月 6日(土) 田園調布学園
12日(金) 桐朋女子中高等学校
21日(日) 慶応義塾大学看護学科
7月29日(水) 東京医大霞が浦看護専門学校
8月24日(月) アクセンチュア
29日(土) MSD名古屋工場
9月 7日(月) ジャックス
19日(土) 目黒星美学園

(片山仁志ボランティア活動委員長)

目黒星美学園　9/19

# キワニスドールをつくる会に参加して

７月 18 日にパソナグループ本社で開催されたキワニスドールをつくる会に参加させて頂きました。今回は総勢 100 人以上になっていたと思いますが、私自身はキワニス歴はまだ３か月ですので、ドールをつくる会も今回２回目となります。前回は作り方を丁寧に教わるのに精一杯で、参加者はキワニスのメンバーのみでしたが、今回は様々な外部の方にご参加頂き、殆どが外部の方で楽しみながら多くの方と時間を共有することが出来ました。ドールをつくるのも若干慣れてきた様で、周りの方とのお話も場を楽しむのにプラスに働いていたと思います。特にこの会に参加されている方は日頃からボランティア活動に積極的なＮＰＯの方や、今回はパソナグループの

海外からのインターンの方であったり、個々が思いを持って活動されているので、ドールをつくる会においても主旨を十分にご理解されて心を込めて作業されており、会話の中でその気持ちが私にも強く伝わってきました。今回は隣のＵＳＡからのインターンの学生に刺激されて一緒に２個ずつ作りました。本来はドールをとじるために縫わなければいけないのですが、小学校以来の裁縫は難しく、最後はＮＰＯの方にお願いさせて頂きました。しかし、今回参加された皆さんが共通に感じたことは「参加して良かった」ということではないかと思います。そしてこのような奉仕活動の積み重ねにより、その輪が拡大していく事の重要性とその更なる可能性を再認識出来た大変有意義な機会であったと思います。今後も様々な活動に参画して行きたいと考えています。　（木本健会員）

## 「キワニスドールをつくる会」報告　2015. 2~5

２月から５月にかけて、ボランティア活動委員会委員ほか会員多数の参加の下、以下の企業においてドールづくりが実施された。

２月　三井住友海上火災保険株式会社、
　　アクセンチュア株式会社
３月　株式会社 GAP
５月　MSD 株式会社 本部、
　　MSD 株式会社 妻沼工場

（注）なお、ファミリーデー（５月 29 日）においても、久しぶりに会員、家族によるドールづくりにいそしみました。

▲２月 20 日 アクセンチュア株式会社にて

この時期は、社会貢献に取り組む企業が中心となりました。ドールの社会的役割についての理解が深まり、定期的にドールづくりを企画してくださる先が増えてきている中で、繰り返し参加される社員が増えているのが印象的です。なお、５月に星、高坂、細田各委員が MSD（株）の群馬にある妻沼工場に出向くなど、支社レベルへの協力を求められるようになっています。こうしたことは、ドールの意義が一層広く理解されることにもつながり、大変嬉しく有難いことではありますが、一方で、こうしたニーズの高まりにどう向き合っていけばいいのか、委員会として検討していきたいと思っています。

（片山仁志ボランティア活動委員長）

## キワニスドールをつくる会に参加して　2015. 2. 4

去る平成 27 年２月４日に三井住友海上火災保険株式会社において開催されたキワニスドールを作る会に参加したのでその状況を報告します。

三井住友海上火災保険株式会社（以下「MS&AD」と略します。）では、従来から社会貢献活動に力を入れてこられましたが、昨年からはその一環としてキワニスドールを作る活動を行っております。今回はその第二回目で２月４日の午後５時半から MS&AD 本社の駿河台新館ビル５階会議室が提供され、有志の皆さんが参加してくださいました。

参加されたのは、MS&AD の側は、花角課長代理さん以下 17 名の皆さん。東京キワニスクラブ側は吉田会長以下８名、総勢 25 人でキワニスドールの作成に取り組みました。今回は、綿づめばかりでなく綿穴の縫い目綴じまで行いましたが、皆さん昨年の経験のある方が多かったせいか（？）とても手際よく作ら

れ、縫い目綴じもきれいに作られておりました。時間は5時半から7時過ぎまでと短い時間でしたが、皆さんの頑張りにより最終的に29個のドールが完成しました。主催された花角さんの手際よい進行と参加者の皆さんの活躍で後片付けも手際よく進み、模範的なドールづくりになったと思います。参加されたみなさんお疲れ様でした。　（磯田壯一郎メンバーシップ委員長）

## 第7回キワニスドールシンポジウムを開催して
## ―優しさに包み込まれた小さな天使の仲間たち―　2015. 5. 16

**1、概要―163名が会場を埋め尽くす**

5月16日（日）午後2時から4時30分まで、埼玉キワニスクラブとの共催で、国際キワニス100周年を記念した第7回キワニスドールシンポジウムを（株）パソナ本部にて開催しました。日頃の企業・学校等のボランティア活動に対する協力や関東圏のクラブ（横浜、千葉、千代田）への働きかけ、事前のマスコミ告知（読売、東京）も奏功し、当日、163名の方が会場を埋め、終始、真摯かつ熱心なシンポジウムが展開されました。

総合司会の仲村渠会員の当意即妙な進行と、パネルディスカッションの司会担当の松本会員の質の高い質疑の誘導とまとめにより、予定時間を超過したものの、進行はスムースに流れ、参加者にとって実り多く、「ドール関係者の情報交換・共有」の所期の目的がそれなりに達成できたのではないか、と思われました。

なお、サッポロホールディングス、東芝、BTジャパン、伊藤忠の協力も受け、東京、埼玉クラブ会員、事務局、パソナ社会貢献室の献身的な役割分担で会場設営から受付等庶務的なロジ周りも全て順調に推移しました。

**2、プログラム―小さな天使の優しさを共感**

当日は、冒頭吉田会長の挨拶に続いて、キワニス奉仕賞の目黒星美学園が表彰され、また平素ドール制作に献身的に貢献されているボランティア8団体に両クラ

ブから感謝状と謝礼を贈呈しました。

続いて、3名の方からドールシンポの基調報告が行われました。当クラブの細田会員から「ドールの概要（生い立ちから現状）」について詳しく報告がなされ、次に、国立成育医療研究センターの越看護師から、医療現場におけるドールの使用について、子どもの心に寄り添う活き活きしたドールの活用状況が仔細かつ丁寧に説明がなされました。最後に、制作者側を代表して、埼玉クラブの「いきがい大学伊奈学園のボランティア団体（代表小林さん）」から、子どものためにドールをいかに品質のいい作品に仕上げるかを会員総出で模擬実演されました。

その後、メインのパネルディスカッショに移り、これには、基調報告者3名のほか7名の方がパネラー（使用者側3名、制作者側4名、クラブ会員3名合計10名）として加わりました。東大附属病院の割田さん（子ども療養支援士）、東京医科大学看護学校の弓野先生が医療現場から、また、奉仕賞に輝いた目黒星美学園高校1年生の関森さん、東京ボランティア団体を代表して小さな天使の長谷さん、企業を代表してパソナの山本さんが、制作者側からの意見を述べ、クラブ代表として星さん（東京）と澤田さん（埼玉）がコメントした後、会場からも3名の方から率直熱心な意見が出されました。医療現場での手術前プレパレ―ションにおける活用のほ

か、小児心の癒しと成育につながっていること、病気の父母を想う子どもと親の絆としても有益であるなどの話にも耳が傾けられ、またドールがいかに愛情をもって丁寧に制作されているかを知ることができ、利用者側、制作者側相互に実のある情報交換となりました。

最後に埼玉クラブの男澤次期会長の挨拶をもって、盛り上がったシンポジウムを閉会し散会となりました。

**3、印象**

**―さらなるドールニーズの広まりにどう向き合っていくか**

会議を通じて、私にとって特に印象に残ったことは、小さな天使が子どもたちのためであることは当然として、天使に携わる大人自身の安らぎにもつながっている、ということでした。このため、会議全体を流れた空気は、ドールが「みんなの心を優しくしてくれる」ということではなかったか、と思われました。改めて、ドールの役割の大きさを実感する一方で、それだけに、これからさらに医療機関、用途の広がりが予想されることに対し、制作者の確保、制作技術の向上、さらには関東圏に属するクラブの需要と供給バランスの調整等の諸問題に、今後東京クラブとして、どう向き合っていくか、多くの課題も投げかけられたようにも思われました。

いずれにせよ、関係者の皆様に感謝しつつ、子どもたちとキワニスクラブをつなぐ小さな天使を肌で感じた安らぐ一日でありました。

因みに、当日のアンケートの集計結果によりますと、3分の1の方が、初めてシンポに参加され、全員が「大変良かった」か「良かった」の印象をもたれたとのことです。また、ほとんどの方が、ドールの趣旨に賛同され、この運動がさらに広がることを期待したいとし、その上何らかのかたちでドールづくりに参加したいとの声が寄せられています。　（片山仁志ボランティア活動委員長）

## キワニス奉仕賞　2015. 5. 16

第5回キワニス奉仕賞は、目黒星美学園中学高等学校が受賞され、5月16日に東京大手町のパソナグループ8階ホールにて開催された、キワニスドール・シンポジウムの席上にて贈呈式が行われ、吉田会長から賞状と副賞が贈られました。

目黒星美学園では、2010年に隣接する成育医療研究センターにおけるキワニスドールの活用状況をみて、生徒に是非つくらせてみたいとの先生方からの要望を受け、活動が始まりました。以来毎年夏休みと学園祭においてドールをつくる会を開催され、今後も熱心に継続的に取り組まれることが期待されています。

シンポジウムでは、学生さんの代表からドール製作についての具体的な活動や今後の取り組みについて発表がありました。　（淡輪敬三Kファミリー委員長）

## 「キワニスドール・シンポジウム」の取材を受けて

**2015. 5. 10、5.12、 5. 22**

5月16日に開催された「キワニスドール・シンポジウム」が東京新聞（5月10日）、読売新聞（5月12日）に事前の告知を兼ねて報道され、5月22日には電気新聞に当日の様子が掲載されました。

- 東京新聞は最初から協力的で事前に報道を検討してくれるとの感触でしたが、比較的大きく紙面を割いて国際キワニス100周年の一環のイベントであることをはじめドールの使われ方、シンポジウムのプログラムも一部紹介されるなど参加申し込み方法も含めて報道してくれました。
- 読売新聞は事務局に取材があり、キワニスが国際的奉仕活動を展開していること、最近では企業が社会奉仕の一環としてドール製作に協力していることも掲載されました。また、国際キワニス100周年のポスターを背景に当方がキワニスドールを抱えている写真が大きく載ってしまい、多くの友人、知人から電話やメールが届きました。時々行く碁会所の碁敵からも記事を読んだとの話もあり、思わぬところでキワニスの活動の周知に役立ちました。

両紙の報道後に一般の方々から事務局への参加申し込みが増加するなど東京、読売新聞の報道のおかげであると感謝する次第です。

# 「キワニスドールをつくる会」報告

企業や学校からボランテイア活動の一環として、ドールづくりの要望が引き続き多く寄せられています。最近の活動実績・予定は次の通りですが、委員会メンバーが手分けして参加するほか、会員の奥様、有志の方々（ナーレの会、港区エンジェルの会等）のご支援を頂いて、ボランテイア活動に積極的に取り組まれている企業の皆様方やドールづくりを授業の一環に取り組んでおられる学校の先生・生徒達とともに、楽しくドールづくりを行っております。

10月11日（土）都立荏原看護専門学校（学校祭）
10月11日（土）都立板橋看護専門学校（学校祭）
11月　1日（土）都立広尾看護専門学校（学校祭）
　　20日（木）MSD（株）本社
12月　9日（火）JCB（株）本社
　　12日（金）MSD 妻沼工場
1月15日（木）、21日（水）、22日（木）
　　大妻中野中学校・高等学校

24日（土）田園調布学園中等部・高等部
2月　4日（水）三井住友海上火災保険（株）
20日（金）アクセンチュア（株）

なお、ドールづくりは、布切り、綿分け等の諸準備を整え、その上で各企業・学校に出かけ、綿詰め、ミシンがけ、脇とじを終え、最終的に検査（金属探知機）、記録を経て、病院等の希望者に配布されます。病気の子どもに渡るまでに非常に長く手間暇のかかった工程があり、ボランテイア活動委員会としても、有志の方々や事務局の熱意溢れるご協力も得てフル稼働で対応しておりますが、今後ドールづくりのニーズがさらに高まり、底辺がますます広がっていくことが予想されますだけに、各段階における皆様方の積極的な応援を引き続きよろしくお願いいたします。　（片山仁志ボランテイア活動委員長）

●ドールづくりにご協力いただいている港区エンジェルの会が「みなと祭り」でドールを展示、紹介くださいました。（2014.10.12）

●キワニスドールについての感想

秋田大学を会場に開催した「病児支援を考える会　ふぁみcafé」でキワニスドールを使用しました。病児とそのきょうだい、教員、臨床心理士を目指す学生はメディカルプレイを体験し、そのひとつとして用意しました。子どものなかには既にもっている子どももおり、「名前は○○っていうよ」など、大切にもっていることが感じられました。特に学生は使い方を説明すると興味をもち、実際に描いて体験してもらいました。ありがとうございました。

## 大妻中野高校でのつくる会に参加して　2015. 1. 15

1月15日、私は、大妻中野高校での「ドールをつくる会」に参加しました。昨秋の新会員研修の際にドールの綿詰め作業を教えて頂きましたが、「ドールをつくる会」の現場は初めてでした。

大妻中野高校では、例年、1年生全員に家庭科の授業で、型取り、裁断、ミシン縫製、裏返し、アイロン掛け、綿詰め、口綴じの全工程を実習してもらっていることを知りました。今年は、3日間、1時間授業7コマで、実施されました。授業の様子は次の通りです。

東京キワニスクラブのメンバー5名と指導員2名が集合し、授業開始前に資材を配布する。家庭科の先生と生徒40人が5人ずつ8組の机に着席する。先ず、高坂前ボランティア活動委員長が、作業内容をよどみなく説明をし、各組代表が布を受取り、作業が開始される。生徒は皆、初めてですから戸惑いがちですが、その様子を見て、キワニスチームが適宜、アドバイスをする。型取りが終わり、裁断をする。ミシン縫製工程に突入すると、雰囲気が一転。あちこちで、「これ、どうするのー？」「糸が針に通らない！」「ミシンが速い、スピードはどうするの？」等々、質問続出。家庭科の先生や指導員は対応できるが、キワニスメンバーは困惑の表情。とりわけ、初体験の私は、お手上げ状態でした。私の目の前の生徒が、実際にミシンを踏み、縫製終了した時、思わず、感動の拍手をしてしまいました。そこでタイムアウト！　殆どの生徒がミシン工程前でした。続きは翌日の授業に持越しされました。

感想を2つ。

（1）キワニスメンバーのオジサマチームは家庭科授業未習にも拘わらず、ドール作りに精通されていて、説明も堂

# 国際大会にキワニスドールを展示

7月17日に幕張メッセで開催された国際大会開会式会場に田園調布学園からお借りした服を着たキワニスドールと素のキワニスドール、写真等を展示し、来賓の秋篠宮殿下ご夫妻をはじめとして、各国のキワニス会員の方々にご覧頂きました。17日午後からは、展示会場に展示を移動し、18日まで展示して、内外のキワニアンとキワニスドールについて、活発な意見交換を行いました。

（大東健治ボランティア活動委員長）

## ドールをつくる会

今年度のキワニスドールをつくる会は、43 回実施されました。

1）5 月に開催したキワニスドール・シンポジウムに初参加された霞ヶ浦看護専門学校教員の弓野様のご尽力により、8 月21 日に、つくば看護専門学校で、同県内の看護学校の教員・看護師を対象に「キワニスドールをつくる会」を初めて実施し、15 名が参加しました。これを機に、茨城県内の看護専門学校でもキワニスドールが制作、活用されることを期待しています。

2）日比谷会員のご紹介で、9 月１２日には、昭和女子大学付属高等学校でも最初の「キワニスドールをつくる会」を実施し、教員・生徒 15 名が参加しました。今後は授業、或はクラブ活動の一環として継続実施される予定です。

3）9 月25 日、新人オリエンテーション前に新人会員向けの「キワニスドールをつくる会」を開催し、会員 6 名が参加しました。

岡村製作所にて　2014. 6. 25

今年度の「キワニスドールをつくる会」の累計結果は以下の通りとなりました。

実施回数：43 回
参加頂いた会員総数：193 名
参加頂いた会員外参加数：10 26 名

ご参加頂きました皆様方に改めて感謝申し上げます。

（大東健治ボランティア活動委員長）

## 第 2 回 日本子ども療養支援研究会シンポジウム
## ーキワニスドールの紹介ー　2014. 6. 7～8

日本子ども療養支援研究会のシンポジウムが 6 月 7 から 8 日の 2 日間にわたり東京で開催され、昨年に続き、キワニスドール紹介の機会をいただくことができましたので、取り組みの状況と課題などについて発表しました。

この研究会は、「子ども療養支援協会」が目指す活動を推進するにあたり会員の研究発表機会の提供あるいは学術的水準の向上などに取り組むため発足した組織で、具体的な課題に重点を置いて意見交換・情報共有を図ることを目的としたシンポジウムを継続して開催しています。この活動を中心となって推進している田中恭子先生・CCS・HPS（順天堂医大、東大病院）からお誘いをいただき、応募したところ了解が得られたため、『「キワニスドール」～小児病棟で子どもたちを見守る小さな天使～として』キワニスクラブの取り組みを紹介したものです。研究会の趣旨に沿い、子どもたちと医療に携わる方々がドールを介して心を通じ合うことを願いつつ、ドールが持つ癒しの直接効果と医療現場でのプレパレーションツールとしての効用などに重点を絞ったプレゼンテーションにしました。

このセクションでは子どもたちの療養支援に係わる 10 事例の発表が行われましたが、流石に医療現場におけるケースが殆どで、一般からはドールの 1 例のみでした。参加者は 120 名ほどでしたが、高坂副会長と大東委員長に会場へご足労いただき、ドールとパンフレットを置いて出席者の皆様に直接手に触れて頂きました。キワニスドールをご存知の方も何名か居られ、非常に意を強くした次第です。今後も関係個所への周知には地道に取り組んで行きます。

（注）①子ども療養支援協会とは、子どもの人権が尊重された医療の提供、そのための療養支援士制度の立ち上げ、などを目的として 2010 年に発足、

・子ども療養支援士認定コースの開設、運営
・調査、研究及び啓発活動
・関係団体との連携及び協同

を活動の柱として医療関係者を中心に活動を進めている団体

② CCS：Child Care Staff の略で当協会認定プログラム終了資格

HPS：Hospital Play Specialist の略で英国における認定資格

（松本一紀ボランテイア活動委員会委員）

## 東大病院からのアンケート

東京大学医学部附属病院　小児 HCU 主任副看護師長様からドールについてのメールをいただきました。

……

平素より大変お世話になっております。今回も 30 個送付して頂き、誠にありがとうございました。心より感謝いたします。

**1. 今回のご使用目的**

・手術前プレパレーションにて使用

**2. 今回のご使用方法**

・人形に名前をつけてもらい、お友達になってもらう
・患児にキワニスドールとカラーマジックを渡し、自分で好きなように人形に色を付けてもらう
・手術室の看護師の術前訪問の際にも、共通のプレパレーションのツールで使用

**3. 今回お使いくださる方**

・対象年齢：3 ～ 10 歳

**4. ご使用頂いた方々の感想**

・キワニスドールを手術室に持っていき、手術室に泣かずに入室できた
・数年かけて複数回の手術が必要なので、初めて作成したドールを入院時いつも持参している。大事なお友達としていつも一緒にいる。

# ボランティア活動委員会報告

**2014. 4. 14、 5. 24**

**1「キワニスドールを つくる会」**

昨年10月から今年の5月末までの8ヶ月間で、32回開催し、会員の参加者は149名、会員外の参加者は約820名に達し、毎月4回の頻度で開催されている。

4月14日、ＵＢＳ証券にて開催された「キワニスドールを作る会」には、来日中のガッサー国際キワニス会長夫妻も同社の社員と共にキワニスドール作りに参加された。

ごえんなこんさあと（2014.3.8）で竹下景子さんがキワニスドールを紹介してくださいました。

**2 第六回キワニスドール・シンポジウム開催**

5月24日、パソナグループ本部にて東京キワニスクラブと埼玉キワニスクラブとの共催で、第六回キワニスドール・シンポジウムを開催した。総参加者は101名。キワニスドールを作る会員、学生、企業、協力グループの方々とキワニスドールを活用する医師、看護師、教員の方々が一堂に会し、パネル・ディスカッションとグループ・ディスカッションを通してキワニスドールとの関わりを報告し、相互の理解を深めた。グループ・ディスカッションの進行役を務めた松本会員は「過去最高の質の高いディスカションだった」とコメントされ、出席者のアンケート結果でも総じて高い評価を頂いた。このシンポジウムを機会に、キワニスドールの輪を更に広げてゆきたい。今回ご支援頂いた協力企業、会員、協力グループ、事務局の皆様に改めて感謝を申し上げます。

（大東健治ボランティア活動委員長）

# 「キワニスドールをつくる会」に参加して　2014. 4. 14

去る4月14日、大手町ファイナンシャルセンターのUBS証券で行われたキワニスドールをつくる会に参加しました。会員の役目は「不慣れな人達への実地指導」なのですが、大東ボランティア活動委員長から「年配者は立っているだけでも効果がある」と勧められ、参加を決めたものです（私の実技経験は綿分け数回と綿詰め1回）。

UBS証券は社会貢献事業の一つとして昼休み時間帯を利用したドール作りを続けており、この日も、若手社員5～60人が参加しました。東京クラブからは藤原会長はじめ10名が参加、訪日中の国際キワニス会長グン

ター・ガッサーご夫妻も加わって花を添えられました。UBS 証券のフィランソロピー担当鎗田様が参加者に挙手を求めたところ、ドール作りが初めてという人はむしろ少数組で、３度目という人もかなりいました。そのため、DVD の映像で作り方の解説があったとはいえ、参加者の作業は比較的順調でした。途中遅れて加わる社員もいましたが、予定時間内に各人縫い止めまで終え、薄ビニール袋に包装された沢山のキワニスドールが完成しました。

私が特に感心したのは、キワニスドールの普及に長年尽力してこられた星さんはじめキワニスのベテラン会員たちの指導ぶりです。テーブルのそばをゆっくり歩いて回るだけで、作業の問題点が分かり、適切なアドバイス、手直しの手伝いなど頼りにされていました。私の方は大東さんの言葉どおり殆ど立ったままで、初心者と思われる人に綿のちぎり方はもっと細かくなど助言できたのが精一杯、今後の努力の必要性を痛感した次第です。

（横田捷宏会員）

## キワニスドールについての感想

キワニスドールを使っている、２つの病院から、ドール使用の感想についてのお手紙を頂戴したので、お知らせします。（増田好平広報委員長）

**１ 千葉県鴨川の亀田総合病院小児病棟の看護師長さん**

2012 年 11 月に貴法人よりキワニスドールをご寄付いただいて以来、その後のご報告が出来ずに申し訳ありませんでした。当病棟でも、ゆっくりとなのですが、キワニスドールの活用により、ご入院中のお子さん達、またそのご家族への心理的サポートを継続させていただいております。

特に、６ヶ月以上の長期入院をされたお子さんや難病のお子さんなどに、それぞれ違ったアプローチでキワニスドールを導入し、みなさん、大事なお友達として退院時にお持ち帰りいただいております。

昨年度から、手術前の心理的準備のサポートとして、キワニスドールを使った子ども向けの術前オリエンテーション冊子の作成に取り掛かっております。

まだまだ、使うスタッフの未熟さもあり、きちんとした、キワニスドールの活用報告はできないのですが、今回、感謝の意を込めて、病棟を代表して保育士が作成したカードを同封します。

キワニスドールを手にしたお子さん達の笑顔がどこか「なっとく」した顔に見えるのは、きっとこれまで私達が気づいてこなかった何かにアプローチできたからではないかと思っております。皆様のご厚意があるからこそのこの気づきに、スタッフもやりがいを感じはじめております。

今後ともよろしくお願い申しあげます。

**２ 伊那中央病院小児看護専門看護師さん**

以前より、貴クラブよりキワニスドールの寄贈をしていただき、小児病棟で使用させていただいております。キワニスドールを使用するようになり、お子さんやご家族からも「（処置や検査の内容を）理解しやすい」などの声が聞かれ、お子さんの処置に対する恐怖心を軽減できている様子が見られています。以前より多くのスタッフがキワニスドールの効果を感じ、使用するようになってきました。また、小児病棟だけでなく、小児科外来でも使用させていただいています。

先日も５歳のお子さんがそけいヘルニアの手術にみえました。私がキワニスドールを使って説明するよりも先に、自分の腫れたそけい部を書きこみ、心臓やおへそなど、さまざまな部分を書きこんでいきました。５歳でこれほどまでに体の部位を認識し、自分の病気を理解していることに驚きました。キワニスドールを使って子どもとコミュニケーションをとることで、そのお子さんの認知機能の発達や病気の理解度を知ることができることに気づきました。

今後も子どもや家族が病気や治療に主体的に取り組めるよう、また少しでも不安な気持ちを軽減できるよう、看護していきたいと思っております。

# 「キワニスドールをつくる会」報告

昨年10月から今年の1月末までの4ヶ月間で、「キワニスドールをつくる会」を18回開催し、参加者は会員79名、会員外約530名でした。以下、2点について報告します。

**(1) 企業の参加が12社となりました。**

企業では、PGF生命㈱、アクセンチュア㈱、MSD㈱、㈱損保ジャパン、三井住友海上火災保険㈱で開催し、協力企業はこれで12社となりました。最近、企業の社会貢献プログラムとして「キワニスドールをつくる会」を採用する企業が増えており、今後の「キワニスドールをつくる会」は企業が中心になると思われます。

なお、三井住友海上火災保険㈱で今回初めて開催が実現しましたが、これは伊藤康成会員のご尽力によるものであり、当日の会には、会員10名、同社から45名が参加して大盛況となりました。

**(2) 学校関係も活発です。**

東京愛育苑金町学園、荏原看護専門学校、板橋看護専門学校、広尾看護専門学校、群馬ガールスカウト連盟、東京家政学院、田園調布学園、大妻中野高校にて開催。大妻中野高校では4日間で6回、型取りから脇とじまでを行い、中村禎良会員の協力グループの方々にご参加頂き、きめ細かい指導をして頂きました。

1月初旬に、8新聞にて、キワニスドールが紹介され、関心も高まっており、この追い風を今後の活動に活かせたいと考えております。

改めて、ご協力頂きました会員の皆様方に感謝申し上げます。　　（大東健治ボランティア活動委員長）

# 企業での「キワニスドールをつくる会」に参加して

**2013. 10. 4、2014. 2. 5**

昨秋（10月4日）は都心の外資系生命保険会社、先日（2月5日）はお台場にある大手飲料会社のボランティア支援制度に基づく、「ドールをつくる会」に出席しました。前者は若手社員を中心に約30名、後者は幅広い年齢層から16名が参加されていました。いずれも、ボランティア活動委員会の洗練された会の運営と、それに真摯な眼差しで応えられていた参加者の笑顔に大きな感銘を受けました。

特に心に残ったのは次の3点です。

1. 製作作業に取り掛かる前のDVDの放映、委員会講師の簡にして誠に要を得たご説明、そして綿詰めから最後の開口部くけ縫いまでの一連の流れは、ある種の形式美と言っても良く、東京キワニスクラブの伝統文化になっていると思いました。
2. 参加された皆さんが口々に、「自分で作った人形に愛着を持つが、これが子ども達のお役に立つと思うと気持ちが癒され、喜びが倍になる」と感想を述べておられましたが、そのお顔は輝いていました。
3. 作業後、「キワニスはどういう意味ですか」、「このドールは海外にも行くのですか」、「クラブの会員は他にどんな活動をしているのですか」等の質問を受ける中で、キワニスクラブへの関心と理解が徐々に浸透しているこ

とを実感しました。

こうした催しを企業との間で地道にアレンジしておられる日本フィランソロピー協会の加勢川事務局長、そして一緒に充実した作業に加わった東京クラブの仲間の皆さんに心から感謝を申し上げます。機会があれば次回は、私もお針を持って、くけ縫いにチャレンジしたいと思います。

（石原正之国際キワニス日本地区事務総長）

## 共同通信社のキワニスドール取材対応と新聞社各紙への報道

**2013. 12. 16**

昨年１２月１６日、東京ベイ浦安・市川医療センターにて共同通信記者の取材がありました。この結果、キワニスドールについての記事が1月５日から１０日にかけて全国の紙面（１４紙）に掲載されました。

同センターでの取材内容は以下のとおりでした。

・キワニスドールの病院での使われ方
・医師へのインタビュー
・入院した子どもさん（２歳児、５歳児）、ご両親への取材

等がありましたので以下報告します。

取材側：共同通信編集局文化部
田澤穂高記者
ビジュアル報道局写真部
安藤由華担当

対応側：東京ベイ浦安・
市川医療センター 小児科
草深純一・部長
香西ひろみ教育担当部長
東京キワニスクラブ
古屋前事務局長、
宇田川事務局員 同席

手術でも一緒怖くないよ
小児病棟で人形が活躍
家族にも安心感与える
手術の怖さ、入院不安緩和
小児病棟で人形活躍
自由に顔描き、親も安心

この取材は当初日本地区のホームページへの照会があり、東京クラブで事前にレクチャーを行い、その後東京クラブでドールを寄贈し、活用されていることとキワニスドールシンポジウムへの協力（発表等）をいただいていることから取材をお願いしたものです。

この取材のほか授業でドールを作成している東京家政学院高等学校の中野実香先生へのインタビューもありました。

この記事については共同通信社から配信され、年明け早々に日本経済新聞（１月７日）、東京新聞（１月５日）、埼玉新聞（１月５日）、沖縄タイムス（１月８日）、日本海新聞（１月５日）、新潟日報（１月５日）、北国新聞（１月５日）、四国新聞（１月６日）、福島民報（１月５日）、東奥日報（１月５日）、岩手日報（１月５日）、茨城新聞（１月５日）、福島民友（１月５日）、徳島新聞（１月１０日）の文化欄の記事など合計で全国の１４紙に掲載されました。

共同通信社の田澤記者の関心と取材協力により、キワニスドールとキワニスクラブの知名度の向上に少しでも寄与できたものと思います。

（古屋俊彦前事務局長）

# 第５回キワニスドール・シンポジウムの開催について　2013. 6. 15

平成２１年に始まり、東京キワニスクラブの年中行事となりましたキワニスドール・シンポジウムは、本年第５回を迎え、東京駅近くのパソナグループ本部８階ホールで６月１５日（土）午後１時３０分から開催されました。今回は、埼玉キワニスクラブとの共催で両クラブの会員を始め、医療関係者及び学校・一般ボランティアグループ・企業等のキワニスドール製作関係者など１５０名の方々が参加されました。

埼玉キワニスクラブ遠藤浩子会員の司会で、東京キワニスクラブ緒方謙二郎会長の挨拶により開会いたしました。

第一部のパネルディスカッションは、東京キワニスクラブの星利樹会員の司会で、４名のパネラーに参加していただきました。東京ベイ・浦安市川医療センターの小児病棟坂井希実看護師から医療現場でのキワニスドールを利用する経験を踏まえたお話しをいただきました。東京都立板橋看護専門学校の高橋紀子教諭からは、キワニスドールの製作、利用双方の立場から参加いただきました。いきがい大学伊奈学園キワニスドールをつくる会グループ小林秀子代表には、ボランティアグループでのキワニスドール製作の立場からお話しいただきました。株式会社ジェーシービー総合企画部・ＣＳＲ室藤解和尚主査からは、企業での社会貢献プログラムとしてのキワニスドール製作について発表していただきました。それぞれの立場からの感想などが披露され興味深いお話しが伺えました。

キワニスドール製作功労団体の表彰の後、第二部として東京キワニスクラブの大東健治会員の司会で、グループディスカッションを参加者全員が１０組に分かれて行いました。

各グループからの発表では、キワニスドールに関して参考になるさまざまなご意見をいただきました。またいろいろな立場での皆様が、このディスカッションにより活発な意見交換、交流が出来たようです。

埼玉キワニスクラブの丸山晃会長の閉会挨拶の後、地下１階ホールで希望者の方々によるキワニスドール綿詰め体験を行いましたが、１００名近くの参加をいただき盛会でした。

第５回キワニスドール・シンポジウムは、株式会社パソナグループの皆様による会場設営、サッポロホールディング株式会社から飲料の提供という多大なご支援をいただき成功裡に実施できました。

（高坂和夫ボランティア活動委員長）

# 初めてキワニスドール・シンポジウムに参加して　2013. 6. 15

６月１５日（土）に行われた、第５回キワニスドール・シンポジウムに初めて参加させて頂きました。昨年末に入会し、キワニスドールづくりの経験もたった１回しかない私でしたので、シンポジウムがどのようなものかも参加するまで正直全く分かりませんでしたが、キワニスの精神と参加者のドールづくりに対する熱意を肌で感じることができ、とても貴重な経験をさせて頂きました。

パネルディスカッションでは、実際どのような形でキワ

ニスドールが使われているか４つの団体から発表がありました。なかでも東京ベイ・浦安市川医療センターの発表で、実際に小児病棟のプレパレーションにおいて、単に子どもたちに手術内容について説明するツールとして使うのではなく、これから子どもたちが直面する心理的な不安を緩和し、乗り越えていくためにキワニスドールが活用されているという生の話を伺うことができ、とても印象に残りました。

グループディスカッションでは、ディスカッションリーダーをさせて頂きました。メンバーは、看護師・学生・一般ボランティアの方々等、キワニスドールをつくる側、使う側の双方の立場の方がいらっしゃいましたが、どのように活用し普及させていくか、参加者の熱意に圧倒されてしまうほど積極的な意見交換ができました。

閉会後、場所を地下に移して希望者のみの綿詰め体験が行われましたが、席が足りないほどの参加者で、かつ終了時刻を延長するほどの盛り上がりでした。

シンポジウムを通じてキワニスドールの意義を心から感じるとともに、少しでも貢献できるよう積極的に参加していきたいと思いました。感謝しています。

（高瀬経秀会員）

## 第３回キワニス奉仕賞の贈呈について

**2013. 6. 15**

６月１５日開催のキワニスドール・シンポジウムの席上、平成２５年度キワニス奉仕賞の贈呈式が行われました。この賞は、キワニスの奉仕活動に協力し、参加する学生団体に対して贈られるもので、今年で第３回目になります。

本年度は、キワニスドールの製作と普及に顕著な貢献のあった東京家政学院中学校・高等学校及び都立板橋看護専門学校の２校に対して賞状および副賞が緒方会長から贈呈されました。

贈呈式には、両校から学生さんたちと指導教員の方々が、出席し、「受賞を励みに今後ともキワニスドールの製作を通して社会貢献を続けていきたい」という趣旨の挨拶があり、シンポジウム参加者から暖かい祝福を受けました。

なお、昨年までの受賞団体は下記のとおりです。

第１回　JUNKO　Association
（明治学院大学ボランティア団体）
第２回　田園調布学園（中等部・高等部）家庭部
及び都立広尾看護専門学校

（中村禎良Ｋファミリー委員長）

## 第１回日本子ども療養支援研究会における キワニスドール取り組みの紹介　2013. 6. 29 ～ 30

この研究会は、「子ども療養支援協会」の活動を進める中で、会員の研究発表機会の提供あるいは学術的水準の向上などに取り組むため発足した組織で、具体的な課題に重点を置いて意見交流を図ることを目的として、研究会最初のシンポジウムが６月２９日及び３０日の２日間にわたり大阪で開催されました。

この活動を中心となって推進している田中恭子医師・CCS・HPS（東大病院、順天堂医大）からお誘いを頂き、一般演題として応募したところ OK が得られたため、「キワニスドール～小児病棟で子どもたちを見守る小さな天使～」としてキワニスクラブの取り組みを紹介しました。

このセクションでは子どもたちの療養支援に係わる１２の事例発表が行われましたが、流石に医療現場におけるケースが多く、一般からはドールを含め３例でした。うち一つはプレパレーションツールとしてのウッドクラフトの利用、もう一つは被災した子どもたちを対象としたキャンプの実施です。

あらかじめ用意した内容は、クラブ紹介からドールの目的や効果、寄贈先、更には制作サイドの実情、課題と今後に向けてなど欲張ったものでしたが、発表時間は９分、コンピューターの操作でロスしたこともあり、催促のベルを３回も鳴らされる始末でした。

参加者は１２０名ほど、ドールを回覧して感触を実感し

てもらいました。また、ドールをご存じの方も居られましたし、利用対象の年齢についての質問もありました。研究会の趣旨に沿い、ドールが持つ癒しの直接効果と医療現場でのプレパレーションツールとしての効用などに重点を絞ったプレゼンになり、意を尽くし切れなかった感はありますが、子どもたちと医療に携わる方々がドールを介して心を通じ合うことを願いつつ、私たちが活動に取り組んでいる熱意は受け止めて頂けたものと思っております。また、参加者の意見交換の場が有れば尚良かったのではないかと感じました。

（注）① 子ども療養支援協会とは、子どもの人権が尊重された医療の提供、そのための療養支援士制度の立ち上げ、などを目的として２０１０年に発足し、
・子ども療養支援士認定コースの開設、運営・調査、研究及び啓発活動
・関係団体との連携及び協同を活動の柱として医療関係者を中心に活動を進めている団体

② CCS は “Child Care Staff”、HPS は ”Hospital Play Specialist” の略で欧米における認定資格

（松本一紀ボランティア活動委員）

## 高崎健康福祉大学における ドールの使い方

高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科　小児看護学講師の方からキワニスドールの使い方について、以下のとおり、お便りをいただきました。

「今年は、学生が頑張ってくれまして、良い写真をお送りすることが出来ます。

学生も一時間の講義＋自分達の時間でどのように作成すればお子さんが理解してくれるか考えてつくることができました。

実際に紙芝居と併用し、キワニスドールも同じ体験をしているところをお子さんが見ることで、ドールの頑張りを教え、お子さんの頑張る意欲も高まるということで作成したとのことです。」

---

## DV シェルターへ初のキワニス・ドール大活躍！

DV（ドメスティックバイオレンス）シェルターとは、DV 被害女性が耐えかねて逃げ出し、一時的に身を寄せる保護施設で、多くは民間の運営です。入居者は、半数以上が子ども連れで、多くは着の身着のまま逃げてくるなど心身ともに深く傷つき疲弊しています。施設のスタッフもそのケアや対処には、心を砕き、日々様々な問題に向き合っています。

NPO 法人かながわ女性会議では、これらのシェルターに対し、スタッフ研修や企業・団体様からの金品の寄付を仲介するなどの支援を行ってきました。キワニス・ドールが、これら被害者・同伴児童の心のケアや立ち直りを支援するツールとして、きわめて有効なのではないかと考え、このたびドールの提供と講師派遣をお願いしました。

東京キワニスクラブ前会長の堀井さんが講師をご快諾くださって、神奈川県内の３シェルターにて、キワニス・ドールの紹介と実際にドールに絵をかくなどの実地のご指導を行っていただきました。スタッフ研修として設定したものですが、あるシェルターでは、スタッフのほかに１５，６名の入居者（乳幼児・子どもとその母、及び単身者）も参加したのです。一般に被害者は他人と一緒に何かすることなどとてもできないと考えられていて、私どももこの英断にはびっくりしたものです。結果、外出できない子ども達がフィーバー状態になるほど大喜びでした。ドールの持つ不思議な力と可能性を感じさせられた一幕でした。

いずれのシェルターもキワニス・ドールに直に触れるのは初めての経験で、「自分だけのドール」、「自分で創るドール」ということがとても心に響いたようでした。基本のドールつくりにも参加できるのでは？と、様々な可能性を発見できた今回の試みでした。今後もさらに回を重ね、様々な応用事例をつくっていけたらと考えております。ご協力いただき本当にありがとうございました。シェルターからの感謝をお伝えいたします。シェルターの性格上、名前も場所も明らかにできませんことお許しください。

上條茉莉子会員（NPO 法人かながわ女性会議理事長）

---

～キワニスブログより～

## アフリカに ドールを送る活動 「喜びの人形」

**2013. 4. 10**

入院中の子ども達のために、世界中のキワニスクラブで人形を作っています。しかし、地球の裏

側に届けるために作られる人形は、そうはありません。傾ける情熱に見合わない不経済な状況にもかかわらず、ミシガン地区のキワニス・ファミリーは、複数年にわたって色とりどりの人形をアフリカ大陸にある各国へ贈り続けています。

きっかけは、サハラ砂漠以南のアフリカと、アメリカとの間で実施されたパートナーシップ事業を基に、とあるキワニアンが一人で始めたことでした。カラフルな人形とドレスを縫って送るという行為が、いつの間にか地区全体に広まったのです。パット・キロフさんには、5 歳で心臓の大手術を受けた孫がいます。お気に入りの人形を抱きしめながら手術台に向かう孫を見守ったおばあちゃんは、病気の子ども達にとって、病院でおもちゃもなく心寂しい思いをしているときに、人形の存在がどれだけ大きいか、身を持って知っています。地区内の子ども達に奉仕する傍ら、「子ども最優先」の議長として関わっていた時、子ども病院に送るために製作した人形を募ったところ、このプロジェクトが山火事のようにみるみる広まったのです。アクション・クラブやキー・クラブ、国際サークル K を含めた 44 のクラブが参加して、最初の送り先に向けて、1,200 以上の人形を製作しました。その送り先が、ケニアでした。

人形の縫製は、単なる手始めに過ぎませんでした。レイチェル・ストローザー - オクムさんは、ケニアのキスムで、キスム青少年サッカー協会に勤めるキワニアン。彼女が英国サッカー協会と協働のボランティア・ミッションを運営していたときのこと、見逃せないチャンスがめぐってきました。

ストローザー - オクムさん曰く、「英国サッカー協会は、寄付された物資を届けるために、とんでもない額のお金を調達して、物資を全部船で送ろうと計画していたんです。そこで、彼らにメールして、人形を送ってもらう事は可能かと問い合わせました。」

人形をイギリスに届けるにあたって、ミシガン州に住むキワニアンの知り合いの船舶輸送業者が役に立ちました。

人形がケニアに届くと、キスム・キワニスクラブのメンバーが配布を担当し、州と地区の病院に入院する子ども達へ、果物と一緒に人形を届けました。

ストローザー - オクムさんは、「この数年で、設備は驚くほど進歩しましたが、マラリアやエイズ、癌の症例がまだまだ多いのを目の当たりにすると胸が痛みます。」と回想します。「人形が子ども達の病気を治したり、状況を変えることはできませんが、人形をもらった子ども達の目が喜びで輝くのは確かです。」

ミシガン地区が製作した人形の数は、この他にもコンゴ共和国に作った 1,200 個と、ナイジェリアへの約 1,800 個、南アフリカへの 400 個をあわせると、5,000 個を超えます。輸送費用は、知り合いの船舶輸送業者とのつながりを活かして、無料または割引料金で送ることができました。キロフさんは、今後もアフリカを中心としてこのプロジェクトを永続的に行うつもりでいますが、他の国々への人形送付の要望にも意欲的です。教会関係者によって、100 個がニカラグアへ届けられました。

「人形を受け取って笑顔になる子どもが一人でもいれば、私の目標は達成されたんだと思えます。このプロジェクトの醍醐味は、子ども達が所有し、それを抱きしめたり、遠慮なく楽しく遊べるものをあげる、というところにあります。」キロフさんはそう語ります。

筆責：コートニー・マイヤー

# キワニスドール製作の状況　2012. 10. 3 ～1. 31

キワニスドールの製作については、このところ、これまでの会員、学校に加え、企業の社会貢献活動の一環としてドール製作を行う会社が増加しております。このため会員の皆様には、会場での指導や綿分け、型などの材料作成にも多くの御支援、御協力をいただき感謝しております。以下最近の製作状況を御報告致します。

▲板橋看護専門学校

まず、学校関係ですが、１０月１１日に**東京家政学院高等学校**、１０月１３日には**広尾、板橋、荏原の３看護専門学校**

の学校祭でドール製作が行われました。１３日は３校同時でありましたが、会員の皆様が手分けをして参加していただきいずれも盛況でした。

１１月５日から１３日にかけては、**大妻中野高等学校**で７回にわたり高校1年生全員が、型取り、ミシン掛けから開口部の脇とじまで全工程を行いました。総勢２４０人への指導でしたが、会員だけでなく会員の友人の方々の御助力をいただき大変助かりました。

1月１９日は**田園調布学園**でしたが、同校は毎年前期、後期で合わせて2回キワニスドールの製作を続けているという実績があります。このため、昨年、キワニス奉仕賞をお贈りいたしましたところ、この褒賞金で家庭部のクラブバッジ、クラブハンコウ、秋の学園祭のためのパッチワークによるクラブパネルの材料などの購入ができ、感謝しているという報告を当日いただきました。

企業関係では、各社のＣＳＲ部門が中心となり、キワニスドールの製作に参加される会社が増えております。１０月１０日、１６日には**ＵＢＳ証券**で、１０月１７日、１１月２８日、１月３１日には**東京海上日動火災**でドールを作る会合が開催されました。

さらに、社会貢献プログラムという形で、１０月２４日に**ＪＣＢ**で、１１月２８日には**アクセンチュア**で日本フィランソロピー協会の仲介でドールを作る会を開催いたしました。**ＪＣＢ**では、１２月５日に企業のＣＳＲ関係者の会議の前に出席者を対象としたキワニスドールを作る会を開催していただきまして多くの企業に周知することが出来ました。

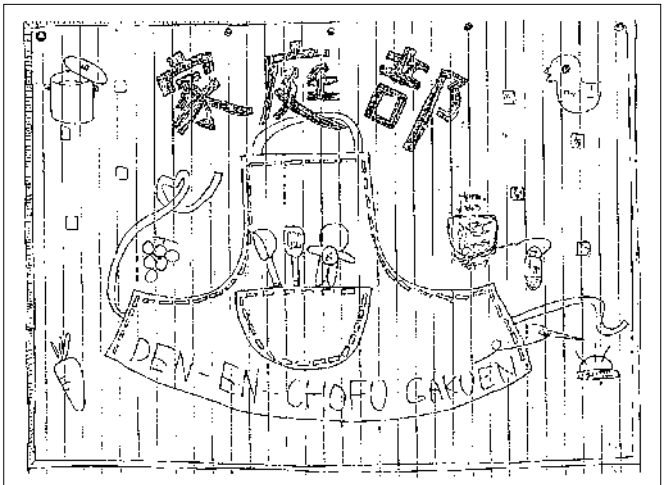
▲田園調布学園でのドールをつくる会

その後、１月２４日は**パソナ**で、１月２９日には**積水化学工業**でドールを作る会を開催し、参加企業は６社になっており、さらに、他の企業からの問い合わせもあり、今後この形も増加する状況で対応を考えることが必要です。

一般ボランテイアを対象にしたドール作りを、１０月３日、１月２４日に、東京駅近くのパソナの会議室で開催いたしました。ミシン、アイロン等も持ち込み型取りからくけ縫いまでの一貫作業を実施致しました。また、当クラブ会員によるドール作りを11月16日、１月１８日の例会終了後に行いましたが、材料不足の状況に対応するために綿分けを頑張っていただき助かっております。

昨年度は、おおよそ１７００個のキワニスドールを製作、寄贈致しましたが、主な寄贈先は、東京大学医学部付属病院、東京ベイ浦安市川医療センター、成育医療研究センター、北里大学病院となっております。ご紹介いたしましたようにキワニスドールを作る参加者が企業、学校とも増加しておりまして余裕も出てきました。会員の皆様の中で小児科の医師や看護師のお知り合いがおられましたらキワニスドールのＰＲをしていただければ幸いです。

（高坂和夫ボランティア活動委員長）




東京キワニスクラブの皆様へ

昨年6月16日には、「キワニス奉仕賞」を頂きました、ありがとうございました。
褒賞を記念して、頂いた褒賞金でクラブバッジ、素敏なハンコ台、大小合わせて
3種類、そして「クラブパネル」（150cm×40cm程）をパッチワークで作る材料を
購入させていただきました。
クラブパネルは2013年度のなでしこ祭（9月28日(土)、29日(日)）で展示できるように
作製しております。　ぜひ　ご来校下さい。
キワニスドール作りという貴重な体験をさせていただき、感謝いたします。
家庭部では部長・会計などの引き継ぎが完了し、新たな学年（現高1）で活動を
始めております。
これからもキワニスドール作りに参加させていただきたいです。
バッを込めて作りたいと思っておりますので、どうぞ　よろしくお願いします。
本日は　お越し頂き　ありがとうございました。

田園調布学園　中等部・高等部
2013年1月19日　家庭部一同

▲奉仕賞の褒賞金でつくったバッチ

◀田園調布学園からのお礼状

## 企業での「キワニスドールをつくる会」に参加して　2012. 11. 28

１１月２８日の東京海上日動火災で行われた「キワニスドールをつくる会」に参加しました。企業の社会貢献プログラムの一環として実施されている会に出席するのは初めて、というよりも「キワニスドールをつくる会」自体の参加が二度目です。昨年２月２７日の「新入会員オリエンテーション」で星会員のご指導で綿づめ体験をし、その後やったのは綿分けだけという分際で１０月１３日の広尾看護専門学校での会が初参加という状況でした。

会場は満席状況で、予想以上に多くの社員さん方が参加されていることに先ず驚きました。女性が圧倒的に多いのは想像していたとおりです。主婦層の方も多いのか皆さん大変手際が良く、堀井前会長がおっしゃるような、自分が詰めるのではなく指導するなどということは、気が小さくてニアリイ初心者の小生にはとてもできません。それでも、自分自身が綿づめを始めていると遅れて来られた方が隣に着席されたので、足、手、頭、胴体への綿の量の配分や細かくちぎって均等に詰めること、各部位への詰める順序、首のところで折れないようになどと一応の説明をしました。多くの社員の方の参加は嬉しかったし、キワニスドール製作の作業にもっと手馴れ次回参加の際は少しでも進歩していたいと思います。

（石井亜佳里レクリエーション委員長）

## 大妻中野高校でのドールをつくる会に参加して　2012. 11. 5

昨年１１月５日、私は、大妻中野高校での「ドールをつくる会」に参加しました。ドールの作り方の演習と事前の綿詰め作業に参加したことはありましたが、実際の現場は初めてでした。同高校のある東中野は、若い時に家族と住んでいたので、街並みが懐かしいものでした。

午前２時間の家庭科の授業の間に、生徒一人一人が布を裁断し、ミシンで縫い合わせ、人形の形に仕上げるわけです。家庭科の先生が非常に熱心で、学校も家庭科の正規の授業として取り入れているそうです。同校でのつくる会は、１１月５日を皮切りに５日間も実施されました。

生徒は、４０人程でありましたが、皆熱心に高坂ボランティア活動委員長の話を聞き、作業に取り組み始めました。途中で分からないことがあると、キワニスの指導員に聞きに来るわけですが、私は、そのたびに「高坂さん！　堀井さん！」と助けを求めるだけでありました。もちろん、色々の雑用は立派に（？）こなしたつもりであります。

感想を２つ。

（1）ドール作りが生徒たち全員の興味を引いており、中には、自分もキワニスの会員になりたいと、堀井さんに申し出た生徒が２人もいました。

（2）事前の綿の袋詰め、就中、人形の形への縫製が実に手間がかかります。今は有志会員の奥様や友人の善意にお願いしていますが、これから今のペースでつくる会が増えていくと、この点を組織的に解決することが緊要です。

（藤原武平太副会長）

## 竹下景子さん キワニスドールを紹介　2012. 12. 20

昨年１２月２０日、小児がんの子どもたちのためのチャリティ公演「ごえんなこんさあと－竹下景子さんとともに－」が、さいたま文化センターで開かれました。これは、ＮＰＯ法人「朴（ホウ）の会」主催、パソナ、龍野コルク工業協賛、毎日新聞社後援で開催されたもので、東京クラブから６名、埼玉クラブから１２名が参加しました。ホールにはコーナーを設け、キワニスドールの展示、パネルでドールの活用状況を案内しました。

朴の会は、小児がんの子どもたちのために、「ごえんなこんさあと」の収益金、会場での募金を「がんを守る会」等に寄付し、自らも小児がんの子どもたちのための活動を行っている団体で、女優竹下景子さんはその有力理解者の一人です。この会に私の高校の同級

生がおり、同期会でお互い子どもたちのための活動をしていることがわかり、「協力できるものがあるよな」がご縁の発端です。

その後、チャリティコンサートが埼玉であるとの話があったので、キワニスドールの話をしたところ、副理事長の筧さんが大変興味を持たれ、コンサートで紹介できることになりました。時間が迫っておりましたが、プログラムに東京クラブのドールパンフレットを差し込むことができ、埼玉クラブの遠藤さんの多大なご協力で、キワニスドールの展示、パネル紹介までトントン拍子に話が進みました。

「こんさあと」第1部は、フルート演奏、歌などのステージ、第２部は「景子が選ぶラブラブわたしのお気に入り～映画編」で体験談を交えたトークが大うけでした。第３部は、朗読とピアノと映像による「葉っぱのフレディ・いのちの旅」で実演での臨場感は素晴らしいものがありました。

最後の花束贈呈で、竹下景子さんがキワニスドールを手にとって、入院中の子どもたちを助け、癒しを与えていることを紹介してくださいました。これからもこの支援活動に力を注いでいきたいとの決意表明で終りました。キワニスドールが、大舞台で多くの人の前で紹介されるのを見て、ホロっとし、このご縁に感謝した次第です。

この催しは１月16日に「ウィンクあいち」でも行われ、名古屋クラブから４人が参加され、埼玉同様、キワニスドールが紹介されたと聞いております。

このようにキワニスドールのご縁が拡がっていることを嬉しく思います。これは多くの皆様にご協力をいただいたお蔭であり、心から御礼申しあげる次第です。ありがとうございました。

（星利樹キワニスドール・シニア・アドバイザー）

## 自治医科大学附属病院におけるキワニスドールの使い方

自治医科大学附属病院緩和ケアの看護師さんからキワニスドールの使い方について、お便りをいただきました。

とてもあたたかみのあるドールで、子どもたちも喜んでいました。親が病気で不安も沢山あると思いますが、ドールを使わせていただくことで、具体的に治療を知ることが出来、良かったのではないかと思います。今後ともよろしくお願いします！

**１．今回の使用目的**

ＣＬＩＭＢ®（親ががんの子ども達のためのサポートプログラム）の一環としての「点滴体験」に使わせていただきました。

**２．今回の使用方法**

子どもたちに自由に顔や身体を描いてもらってから、ひとりひとり点滴を刺してテープを貼るところまで体験してもらいました。

**３．今回使った人**

小学生３名、中学生２名

**４．使用した人の感想、要望など**

親がどのような治療をしているのか実際に知ることで、子ども達の中で安心感をもてたようです。人形は持ち帰りさせています。

## キワニスドールが紹介された

**（1）みなと区民まつり**

昨年10月６日、７日に開催されたみなと区民まつりの中で、堀井前会長の友人が参加されている「ＣＣ３期会」のブースでキワニスドールが紹介されました。

### （2）田園調布学園の学園ブログ

田園調布学園のブログにおいて、1 月 19 日に「土曜プログラム「キワニスドール作り」講座」としてキワニスドールが紹介されました。

# 第４回
# キワニスドール・
# シンポジウム

**2012. 6. 16**

東京キワニスクラブでは、横浜、千代田キワニスクラブと共催で６月16日「第４回キワニスドール・シンポジウム」を東京都千代田区大手町の㈱パソナグループ本部会議室で開催しました。１５０名を超える参加をいただき、キワニスドールをはじめとしてボランティア活動に関係する方々の関心の高さがうかがえるシンポジウムとなりました。

シンポジウムのコンセプトは従来から「キワニスドールの活用・製作両サイドの相互理解を深めることにより、ドール活用の一層の展開をはかる」として進めて来ていますが、今回のポイントは医療現場における事例に加え、初めて製作当事者の取り組み事例の紹介を実施したことです。

発表者は、医療現場から、東京大学医学部付属病院関口主任副看護師長、神奈川県立こども医療センター岩崎主任看護師のお二人、ドール製作側から東京愛育園金町学園濱崎園長、田園調布学園中等部・高等

部間瀬教諭のお二人の４名です。

その後、参加された看護師、学生、CSR 企業、一般ボランテイアの皆様にキワニスクラブの会員も加わり、グループに分かれて意見交換会を実施し、各グループの代表に結果を発表していただきました。

当日のアンケートやグループディスカッションを通じて、「病気と闘う子ども達にどの様にドールが使われているか知ることが出来て良かった（初参加）」、「作って下さる方がいて入院している子ども達の笑顔が有る。感謝申し上げます。（医療関係）」、「聴覚障害者が作ってくれている。支援する立場、ボランテイアをする意義、本質が理解できた。（医療関係）」、などのご意見・ご感想が寄せられました。

また、キワニスクラブに対しては、普及やボランテイアの拡大にはまだまだ課題が有ると受け止めて頂いた上で、「協力できるところで参加したいので、声を掛けて欲しい」、「活用と製作双方のコーデイネート役を頑張って欲しい」などのご要望を頂戴しました。

情報共有を通じてキワニスドールへの相互理解を深めると同時に、キワニスクラブとしてドールの普及充実を図る上での課題も再認識するシンポジウムでした。

シンポジウム終了後、希望者による「ドール綿づめ体験会」を実施しましたところ、８０名を超す方々にお出で頂き、初体験の方はベテランのアドバイスを受けながら時間一杯楽しく製作して頂きました。ご支援・ご協力を頂きました皆様に厚く御礼申しあげます。

（松本一紀キワニスドール・シンポジウム実行委員長）

# キワニスドールを作る

## 2012. 6. 2、6. 4、8. 8、8. 29

最近、キワニスドール作成を授業に取り入れてくれる学校が新たに増加しております。また、これまでになかったケースとして企業が社員のボランテイア活動の一環にキワニスドール作りを採用してくれました。この試みには日本フィランソロピー協会に仲介の役を果たしていただいております。このようにキワニスドールを作る会が増加しておりますので、多くの会員の積極的な参加を期待しております。

### ●田園調布学園中等部・高等部　2012. 6. 2

田園調布学園は毎年1年に２回家庭科のカリキュラムでキワニスドール作りを行っています。今年は６月１６日の第４回キワニスドール・シンポジウムで担当の先生のスピーチやＫファミリー委員会からの表彰を受けることが決定されていたこともあり盛り上がった時間となりました。また9月２９，３０日の同校の学園祭「なでしこ祭」におきましてキワニスドールの展示が行われ当クラブからも会員が田園調布学園を訪れました。

### ●ＪＣＢ　2012. 6. 4

ＪＣＢは企業の「社会貢献プロジェクト」として、これまで外国絵本への和文貼り付け、眼の不自由な方のための音読等を行ってこられましたが、その一環にキワニスドール作りを行いたいとのことで開催いたしました。１３時３０分からの開始でしたが１０名ほどの若い方の参加でした。皆さん既に子どもさんをお持ちの方が多く、そのためか、楽しい、こういうことだと知っていればもっと参加者が増えたかもしれない、是非また

開催してほしいなどの感想を聞かせていただき今後も期待できそうです。

**●アクセンチュア　2012. 8. 8**

アクセンチュアでは企業の「社会貢献プログラム」としてキワニスドール作りを開催していただきました。時間外の１９時からという限られた時間でしたが外国人男性の参加もあり２１時まで和気藹々の雰囲気でした。アクセンチュアの皆さんからもこの会合をまた開催してほしいという感想が多くありました。

**●目黒星美学園中学高等学校　2012. 8. 29**

目黒星美学園でもこのところ毎年キワニスドール作りを続けております。今年は夏休みの一日で今回が初めてという生徒も多かったようですが、仕上がりはなかなかの出来栄えでした。同校では9月16日の学園祭

「純花祭」でキワニスドールを作る会を開催していただきました。生徒の父兄、弟妹など多くの方の参加を得ることができました。

（高坂和夫ボランティア活動委員長）

# 初めてキワニスドールを作って　2012. 3. 16

３月16日、例会の後のドール作りに初めて参加しました。初参加は緊張しますし、恥ずかしくもあります。例会の後に製作というチャンスを与えていただいたので、参加できました。

私たちのテーブルには、５人ほどが座りました。３人の方が経験者で、大変優しく作り方を教えてくださいました。「綿は細かく千切るのです。端の方から詰めてください。均等に行き渡るようにしてください」。その優しさに、緊張感と恥ずかしさは、すぐ消えてなくなりました。20分ぐらいで一個目が出来上がりました。事務局の方が、私たち初参加者の作品を手に取っ

て、「凸凹があるとうまく顔が書けないのです」と言いながら直してくださいました。

続けて、もう一つ作りました。3月でしたが、結構汗ばみました。ちょっとした達成感も味わいました。ふと、私の作ったドールはどの児の所へ行くのかな、その児に笑顔と希望をお与えくださいますように、と願いました。

それからしばらくして、昨年の大津波で被災地から押し流されたサッカー・ボールがアラスカ沖沿岸に漂着、アメリカ人が発見したことが、報じられました。高校生の持ち主も特定され、直接手渡される予定とのことです。このニュースは、当事者の方々はもとより、世界の多くの人々に感動を呼び起こしました。私は思わず「サッカー・ボールの絆力」と口ずさみました。キワニスドールの絆力を信じて、また製作に参加したいと思います。

（廣瀬權会員）

## 金町学園でのドール作り　2012. 3. 4、5. 20

3月4日（日）および5月20日（日）の両日、東京愛育苑金町学園へお邪魔しました。

入所している聾唖のハンデを持つ子どもたち約20名ならびに職員の皆様と一緒にドールを作ることになったのです。

最初にご連絡を頂いて濱崎園長先生にお会いし、キワニスドールのお話をさせていただいてから実現までには約1年間の園長先生のご苦労が有りました。

きっかけはNPOの集会があり、その会議で園長先生がキワニスドールのことをお聞きになったとか。そしてキワニスドールを知るにつけ、何としても子どもたちを制作に携わらせて見たいとお考えになったそうです。障害を持つ自分たちが、ドールを通じて病気で闘う子どもたちのために役立つことができる、それが実感できれば大きな自信に繋がるのではないかと。

ただ、大きな制約もありました。カリキュラムに組み込むことは出来ない上に、強制も無理、いかに生徒一人一人の意欲を掻き立てるかが難しい点でした。

そして、時間をかけて生徒の意欲を高め、職員も巻き込んだ今回のドール作りは事情のある子を除き全員参加で実施出来たのです。園長先生のリーダーシップは勿論ですが、職員の皆様のご協力も大きかったと思います。本当に熱心に制作して頂き誠に有難うございました。

なお、詳細につきましては園長先生に今回のキワニスドール・シンポジウムでの発表をして頂きましたので、シンポジウム冊子をご覧いただきたいと思います。

今回のドールを作る会で何より心に残ったことは、生徒や職員の皆様と一緒に頂いたお昼のカレーライスの味と、拙い手話で生徒に語りかけた時に小さな拍手をもらったことです。余談ながら、最初に手話の挨拶をしたところ、園長先生に言葉をきちんと音に出して下さい、と厳しく注意されたことも。

両日とも、星、高坂両会員が参加して下さいました。

（松本一紀会員）

前の説明のポイント、ポイントのところでキワニスドールが使われております。そのお蔭なのか、手術室の雰囲気や白衣、マスクの先生も怖がらず、手術室でもほとんど泣かないそうです。もちろんドールも一緒です。親御さんの不安解消にもキワニスドールが役立っています。これは新たな認識でした。

3. キワニスドールはほとんどの子どもさんが自分で絵を描き、白地のドールは両面描けるし、ペイントが良く映えるので、使い勝手がありますよとのコメントで、うれしい評価をいただきました。
4. ということで、キワニスドールはなくてはならない存在で、子どもさん、親御さん、看護師の皆さんに愛されています。特にキワニスドールのソフトな感触はすばらしく、気持ちを込めてつくっていただき、ありがたいの言葉に本当にうれしくなりました。

最後に特に感銘を受けた話がありました。

「病院は検査、治療に当たり、最大の努力をしているが、個人の心の中には入れない。この心の中にキワニスドールはごく自然に入って、やすらぎ、癒しをもたらしている。ここが違うのです。病院にとってキワニスドールは離せません。」

これから、もっと心を込めてたくさんのドールをつくり、皆さんのお役に立たなくてはと、新たな気持ちをもって帰った次第です。

（星利樹キワニスドール・シニアアドバイザー）

## 調布城山保育園におけるキワニスドールの活用　2012. 3. 12

３月21日、私自身は３回目となるキワニスドールのお届けにお邪魔しました。

松本園長先生のご案内で、保育室を順番に覗かせてもらうのですが、お昼寝中の年少組の部屋では、大部分の子がドールを脇にして眠っていました。

お昼寝直前の部屋を訪れた時です。突然見知らぬおじさんが入って来たので、最初固まっていたのですが、園長先生が「お人形さんを作って下さる方ですよ～」と声をかけて下さったら、一人の子が自分の入れ場所からドールを手にし「これ、私のお人形だよ」と話しかけてきました。すると、何人かが近づいて来てそれぞれにしゃべり始めます。意外に、人懐っこい園児たちです。

松本園長先生がドールを利用しようと思われたのは、もともと教育の一環に人形を使ってみようと考えられているときに、医療関係者からキワニスドールの話を聞かれ、園児にも活用できるのでは、と事務局に連絡して下さったのが最初です。

２度目からは私が直接持参し、園児たちの様子を拝見しながら、先生方のお話を伺って来ました。

ドールを通じて、物を大切にする、自分と他人の違いを理解し相手を思いやる、ことを園児たちに伝えたいとの園長先生のお考えのほかに、副次的効果として、保護者に作ってもらうことで安心感や愛着を強める、などが挙げられています。当然のこととして、ドール活用に当たっては、保護者にキワニスクラブ並びにドールについて十分に説明し、ご理解を得た上で絵付けや着付けをお願いしているとの事です。

ドール本来の活用の趣旨から、現在、他の保育園でのドール活用のご要望にはお応えしておりません。学校でも２クラス、実際に、ドールを利用して普通授業を行い、極めて有益な効果も確認しておりますが、こちらも積極的に広げる予定はしておりません。

そうした経緯の中で、園長先生のドール活用の狙いの効果をしっかり確認させて頂くための実証的な意味合いから、当分の間、お届けしますとのお約束になっているのです。

園児たちの友達として可愛がられているドール、情操教育の一助としてのその効果のほどを園長先生とともに今しばらく見守って行きたいと考えます。

（松本一紀会員）

## キワニスドールが紹介された

### 2012. 1. 21、4. 20、　6. 2

東京愛育苑金町学園の「金町学園だより」と田園調布学園中等部高等部の「学園ブログ」にキワニスドールが紹介されました。

東京愛育苑金町学園の「金町学園だより」（第２６号（平成２４年４月２０日））では、「人と人との繋がりの大切さを学びました－キワニスドールの取り組みを通じて」との見出しの下で、３月４日のクラブの指導を受けながらドール作りに励む児童らの様子が紹介されています。

人と人との繋がりの大切さを学びました
キワニスドールの取り組みを通じて

田園調布学園の学園ブログでは、1月21日にブログに、「土曜プログラム「キワニスドール作り」講座」として紹介されています。そして、実は、6月2日のブログにも同様の紹介があります。(https://www.int-acc.net/chofu/2012/01/)　（増田好平広報委員長）

# キワニスドールを作る会

**［看護専門学校］**

広尾看護専門学校　　昨年10月15日
板橋看護専門学校　　昨年10月15日
荏原看護専門学校　　昨年11月19日

各看護専門学校では昨年秋の学校祭におきまして、会場を設営してキワニスドールを作る会を開催していただきました。東京キワニスクラブからもそれぞれに多くの会員が参加いたしました。各会場ともたくさんの参加者で熱気溢れる盛況でした。

広尾看護専門学校では昨年キワニスドールサークルを発足させておられるなど積極的な取り組みをいただいておりますが、今後もこれらの看護専門学校において毎年こうした催しを開催していただけることを期待しております。

**［中学高等学校］**

東京家政学園　昨年11月21日、11月24日
大妻中野中学高等学校
　　昨年12月19日、本年1月13日
田園調布学園　本年1月21日

各校ではキワニスドール作りを授業の一環として取り入れ毎年定期的に実施していただいております。各校とも2時間程度でありますが担当の先生が中心となり熱心な取り組みを進めておられます。東京キワニスクラブからは当日有志の方々が作成のお手伝いに参加しております。

特に田園調布学園では昨年秋の学園祭でキワニスドールの展示や東京キワニスクラブの紹介をしていただくなど意欲的な取り組みをされております。

▲ 荏原看護専門学校

▲ 荏原看護専門学校

**［東京キワニスクラブ会員によるドール作り］**

昨年11月18日、本年1月20日

当クラブ会員の皆様にキワニスドール作りにさらに多く参加していただくために、例会終了後1時間程度ドールの綿詰め、綿分けを行う会を開催いたしました。

今後も奇数月の第三金曜日例会終了後に計画しておりますので会員の皆様の積極的な参加を期待しております。　　（高坂和夫ボランティア委員長）

# キワニスドールを作る会　2011. 6. 18、7. 19、8. 25

## ●田園調布学園　2011. 6. 18

田園調学園ではキワニスドールの作成をかねてからカリキュラムに組み入れておられ今年は1月２２日に次いで今回が2回目となりました。

田園調布学園は去る5月１４日に開催された第３回キワニスドール・シンポジウムにも先生と多数の生徒が参加されました。このようにキワニスドールの作成に従来から極めて積極的な取り組みをされております。今回も会場が満席になるほど多くの生徒の参加で大変盛況でした。

特にこの日は明治学大学のボランティアグループの学生５人の参加もいただき会場の雰囲気がさらに盛り上がりました。

## ●女子美術大学院　2011. 7.19

女子美術大学院では、芸術学部・ヒーリング表現領域の学生とゼミの教授を中心に「キワニスドールの講習会」としてドール作りに携わって頂いていて、今回が２回目になります。この会の特徴は、ドール製作は勿論ですが、教授も含め意見交換の時間をたっぷり確保することに有ります。ヒーリングデザインの実際、小児科病棟のデザイン・建築の具体化施設まで、様々なお話が伺える貴重な場でも有ります。

そして、今回のみなさんからの感想は

・病気の子どもたちを支える存在であると思うと、ちぎり綿一つにも愛しさが湧くと同時に、いい加減な出来上がりでは受け取った子を支えられない！との緊張と責任を感じた。

・母国ではこのボランティア活動が見られないので、拡がって欲しい。一生懸命に作った気持ちが子どもたちに届くよう祈ってます（海外留学生）。

・医療用だけではなく、たとえば震災後の支援等の使い方が考えられると思いました。

などなど。

更に今回は特に、学内に立ち上げて居る「震災地支援プロジェクトチーム」にもお邪魔して、ドール活用の現状をお話する機会も設けて頂けたことです。

罹災児童の心のケアに資するアイデアに繋がることを期待すると同時に、私たちも出来ることから確実に進めて行きたいと強く心に期した一日でした。

## ●目黒星美学園　2011. 8. 25

目黒星美学園のキワニスドールを作る会では、５月に開催されたキワニスドール・シンポジウムの記録ＤＶＤが完成しましたので、会の冒頭このＤＶＤを披露いたしました。生徒の皆さんは熱心に鑑賞しておられましたが、グループディスカッションの発表の場面で目黒星美学園の生徒が登場すると、どっと歓声が上がりました。

今回の

作成では完成する数よりも完成品の質の充実に重点をおくようお願いしたところ出来上がったキワニスドールはいずれも立派なものですべて合格でした。今後こうした会では質の充実を大事にすることが必要と感じました。

この日は参加した生徒の皆さんが事前にクッキーを焼いてくださったことから最後の反省会は美味しいクッキーとお茶で楽しいひと時となりました。

（ボランティア活動委員長　高坂　和夫）

## キワニスドールサークルが二つ発足しました　2011. 8. 9、2011. 9. 8

ドールつくりを目的に２つのサークルが新たに立ち上がりました。

○都立広尾看護専門学校のキワニスドールサークル（８月９日）

○多摩市ボランティアグループ「小さな天使」（９月８日）です。

スタートに当たって、ボランティア活動委員会の星と松本がお邪魔をし、キワニスクラブの紹介、ドール製作の趣旨、製作上の留意点などをご説明、意見交換の場も設けて頂きました。

今後、定例的に集まり、ドールをつくって頂けるとの事で、子どもたちのドールを抱く姿を思い浮かべながらドールを仕上げて行きたいと、心強い決意を伺って参りました。

例会日には当委員会からも出来るだけご一緒し、子どもたちから喜んでもらえる抱き心地の良い製品にしていきたいと思っています。

（前ボランティア活動委員長　松本　一紀）

## キワニスドールを利用した「お絵かき会」の実施
## ー避難施設の子どもたちとの交流ー　2011. 8. 29

大震災の後、避難所での状況が伝わる中、浮かんでいたのはハイチ大地震の際に各国から現地の子どもたちに送ったキワニスドールのことです。

ハイチのその後の情報も無く、単に届けるだけで役に立ったのかどうか、と云う思いも有って、何とかして子どもたちに直接ドールを届けられないだろうか、また話し相手にもなってあげられないだろうか、と考えていました。

そんな折に帝京平成大学の赫多先生にご相談に乗って頂き、学生のみなさんを参加させて下さるとのお話しも頂戴しまして、イメージが固まった所に、ドールシンポジウムにおけるパネリストの風間先生の現地での経験談なども伺ったことで、一挙に具体的な方向が固まって行きました。

訪問先は制約が有る中、町役場との事前調整なども経て、加須市の避難施設の子どもたちとしました。８月29日約２時間弱ではありましたが、帝京平成大学の赫多久美子先生と学生４名、都品川特別支援学校教育支援コーデネーターの宮嶋祐紀子先生の参加を頂き、当クラブからは伊藤会長、堀井副会長、委員会メンバー数名、事務局１名も加わりました。当日の模様は赫多先生からのご寄稿の通りです。

会場へ来てくれた子どもたちは４名でした。この数字をどう解釈するかの議論は別にして、キワニスドールを活用した云わば大きな実験と考えています。

若い人たちに子どもたちとの触れ合いの場を提供する…ことも、ボランティア活動の大切な要素では無いでしょうか。幾つかの反省点を踏まえ工夫を諮り、子どもたちの避難生活が続く限り、続けて行きたいと思います。

なお、この活動に対し、井戸川　克隆双葉町長様からお礼のお手紙を頂きました。

（前ボランティア活動委員会委員長　松本　一紀）

拝啓　このたびは双葉町民に対しまして、御厚情あふれる御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、3月11日の東日本大地震により、双葉町においても尊い命と財産を失い、さらに原子力発電所の事故により町民全員が避難生活を送ることを余儀なくされています。

失意の中にあって、全国の皆さまから励ましのお言葉や心温まるご支援、衣服の寄贈などを賜り、感激の極みであります。今回の活動のご支援、本当にありがとうございました。

皆様のお気持ちが町民全員の力強いエールとなり、厳かな励ましとなっております。復興はまだまだ先行が見えませんが、町民一同、一日も早く双葉町へ帰ることを心の支えとしながら、頑張っております。

どうぞ今後とも、ご支援や励ましのお言葉を賜われば幸いと存じます。

この度のご厚情に対し、参上して御礼を申し上げるべきところ、誠に恐縮ですが、取り急ぎ書面を持ちまして御礼に代えさせていただきます。

誠にありがとうございました。

敬具

平成23年9月吉日

各　位

双葉町長　井戸川 克隆

与える。委員会の半数は、委員長をユース会員とし、副委員長は必ずユース会会員とする。
2. 新入会員は、入会後1年以内に、例会で卓話をするか、受付をすることとする。
3. オールドとヤングが忌憚なく気軽に交流できる場をもっと創るべし。
4. 東京キワニスクラブはもっと国際展開すべし。Visit Japan キャンペーンをうって、キワニス会員は、ホームステイのホストファミリーとなる等。
5. 女性会員は、現在14人、会員総数の7パーセントと異常に少ない。入ってよかった思わせるセールスポイントを探索すべし。

今後、メンバーシップ委員会を中心にこれら提案をフォローすることとなった。

（前メンバーシップ委員長　藤原　武平太）

## 目黒のさんま祭りで宮古水産高校を応援してきました　2011. 9. 4

9月4日日曜日目黒駅の駅前で「目黒のさんま祭り」が開催されました。落語の「目黒のさんま」にちなんで、品川区の目黒駅前商店街振興組合が1996年から、焼いたさんまを無料でふるまうお祭りで、さんまは岩手県宮古市から毎年6～7000匹無料で提供されるということです。

東京キワニスクラブでは、東日本大震災によって甚大な被害をこうむった水産業の復興を応援し、将来の日本の水産業のリーダーとなる有為な人材育成を支援するため、被災した水産高7校の支援を行うことにいたしました。このプロジェクトの窓口になっていろいろご指導ご協力をいただいた宮古水産高校の校長先生から、宮古水産高校の生徒が今年初めて、「目黒のさんま祭り」に参加して、水産高校が作った「さんまの缶詰」を販売するというお話を伺い、応援のため出かけてみました。

9月4日は台風12号の影響でお天気が懸念されましたがなんとか晴れ、午前10時に目黒駅に到着するとはやくも目黒通りから焼いたさんまのにおいが漂ってきます。宮古水産高校がさんまの缶詰を販売するコーナーには、宮古から「1年 物マガキオーナー募集」のコーナーや、宮古のお菓子のコーナーがあり、大変な賑わいでした。このコーナーで買い物をした人にふるまわれた「サンマのつみれ汁」も大変美味で、さんまは当然として大根のおいしさに感動しました。

東京キワニスクラブの水産高校支援は3年間行う予定です。来年も宮古水産高校の生徒さんや宮古市民のみなさんの元気な顔を見られるよう応援し続けましょう。

（会長　堀井　紀壬子）

## 新入会員オリエンテーション<br>初めてのキワニスドール綿詰め体験　2011. 9. 14

去る9月14日、新入会員オリエンテーションに先立ち、キワニスドールの綿詰めを体験いたしました。

当日は、私と狩野会員が生徒となり、松本ボランティア活動委員長に加え、吉田事務局長にご指導いただきました。

「最初は、綿全体を五等分し、小さくちぎり、先端を割り箸を使いながら固くして」など丁寧なご指導を受け、一生懸命に詰めましたが、その途中にも、松本委員長は数え切れないほどドールを作ったこと、本来ならば、布の裁断、縫い取りから始め、最後の仕上げまで一人でやらなければならないこと、ドールを手にした子どもたちが心からうれしそうにしていたことなどのお話もきかせていただきました。

私は、元々、親子のような強い関係がなくとも、また自らの利益にならなくても他の人のために何かをしてあげられることが、人間と動物の違い、つまり人間であることの証であると考えていました。今回の綿詰めは、限られた力しかない一個人が他の人のためになる活動をすることの意義を改めて考える機会になりました。

今後は、できれば子どもたちがキワニスドールを手にして、にっこり笑っている場面も経験したいと思います。

松本委員長様、吉田事務局長様、ご指導ありがとうございました。

（会員　綿貫　茂）

# キワニスドールがテレビに登場　2011. 9. 1

9月1日(木) ＮＨＫ教育テレビの番組「グラン・ジュテ」(22:25 ～ 22:50) にキワニスドールが登場しました。

各界で活躍、貢献されている方々をインタビュー形式で紹介している番組ですが、独立行政法人国立成育医療研究センターの CLS (Child Life Specialist) の相吉恵様の仕事の様子を職場を含めて取材、放映されたものです。

この中でキワニスドールが活用されている場面が紹介されました。

国立成育医療研究センターでは以前から当クラブが寄贈したキワニスドールを活用しています。

なお、相吉恵様はキワニスドール・シンポジウムにも参加されるなど当クラブの活動にご協力いただいています。

(前広報委員長　古屋　俊彦)

# キワニスドールを作る会　2011. 6. 18、7. 19、8. 25

## ●田園調布学園　2011. 6. 18

田園調学園ではキワニスドールの作成をかねてからカリキュラムに組み入れておられ今年は1月２２日に次いで今回が２回目となりました。

田園調布学園は去る５月１４日に開催された第３回キワニスドール・シンポジウムにも先生と多数の生徒が参加されました。このようにキワニスドールの作成に従来から極めて積極的な取り組みをされております。今回も会場が満席になるほど多くの生徒の参加で大変盛況でした。

特にこの日は明治学大学のボランティアグループの学生５人の参加もいただき会場の雰囲気がさらに盛り上がりました。

## ●女子美術大学院　2011. 7.19

女子美術大学院では、芸術学部・ヒーリング表現領域の学生とゼミの教授を中心に「キワニスドールの講習会」としてドール作りに携わって頂いていて、今回が２回目になります。この会の特徴は、ドール製作は勿論ですが、教授も含め意見交換の時間をたっぷり確保することに有ります。ヒーリングデザインの実際、小児科病棟のデザイン・建築の具体化施設まで、様々なお話が伺える貴重な場でも有ります。

そして、今回のみなさんからの感想は

・病気の子どもたちを支える存在であると思うと、ちぎり綿一つにも愛しさが湧くと同時に、いい加減な出来上がりでは受け取った子を支えられない！との緊張と責任を感じた。

・母国ではこのボランティア活動が見られないので、拡がって欲しい。一生懸命に作った気持ちが子どもたちに届くよう祈ってます（海外留学生）。

・医療用だけではなく、たとえば震災後の支援等の使い方が考えられると思いました。

などなど。

更に今回は特に、学内に立ち上げて居る「震災地支援プロジェクトチーム」にもお邪魔して、ドール活用の現状をお話する機会も設けて頂けたことです。

罹災児童の心のケアに資するアイデアに繋がることを期待すると同時に、私たちも出来ることから確実に進めて行きたいと強く心に期した一日でした。

## ●目黒星美学園　2011. 8. 25

目黒星美学園のキワニスドールを作る会では、５月に開催されたキワニスドール・シンポジウムの記録ＤＶＤが完成しましたので、会の冒頭このＤＶＤを披露いたしました。生徒の皆さんは熱心に鑑賞しておられましたが、グループディスカッションの発表の場面で目黒星美学園の生徒が登場すると、どっと歓声が上がりました。

今回の

# 第３回 キワニスドール・シンポジウム レポート 2011. 5. 14

キワニス・ワンデーの行事として、東京キワニスクラブでは横浜、埼玉キワニスクラブと共催で５月14日「第３回キワニスドール・シンポジウム」を東京都港区北青山　伊藤忠商事株式会社本社10階会議室で開催しました。参加人員は199名で東京クラブ関係が60％、横浜クラブ関係が10％、埼玉クラブ関係が20％強でした。

シンポジウムの結果はアンケートの結果報告が適切かと思います。アンケートの回答数は80名でした。キワニスクラブ会員・家族は30名、一般の方が50名でそのうち医療職場からは19名、学校の先生・学生が15名です。またこれまでキワニスドールを全く知らなかったが始めて参加した方が11名でした。

シンポジウムの感想で大変よかった51名、よかった20名でした。

今回のシンポジウムのポイントは1、基調講演では全般的な小児科医療とキワニスドールのつなぎを紹介したい。２、今まで病院のこどもの患者さんに送って利用されてきましたがもっと広げたいと、障害児関係、児童教育で躾、他人に対する思いやりの指導に活用している事例を紹介したい。３、双方向交流を期した意見交換会の３点でした。

始めに基調講演として東京大学大学院五十嵐教授から「小児医療の問題点とキワニスドール」のテーマでのスピーチをいただきました。日本のこどものおかれている環境、問題点についてわれわれの知りえない貴重な現況が紹介され、特に親御さんとの関わりが大きいと聞かされ考えさせられました。

次に４人の講師からキワニスドールの活用状況についてスピーチがありました

医療現場から台東区立台東病院風間看護師長、さいたま赤十字病院松永看護師 障害児支援現場から帝京平成大学赫田講師、児童教育の現場から東京都立品川特別支援学校宮島コーデイネーターから障害児低学年児童での活用で成果が挙がっている例が紹介され、また、飛び入りで風間さんから震災現場に赴き子どもとドールで交流し大変喜ばれた事例が画面で紹介されました。

アンケートでも障害児、児童教育の話がよかった、素晴らしかったと◎をつけて戴いた方が２９名もありました。震災現場の話でも大変感銘を受けたとのことで

## キワニスドール作成講習会に参加して　2011. 4. 4 ～ 5

4月4日、5日の二日間、東京キワニスクラブ事務所においてドール作成の講習会が開かれました。会員の方々にドール作りに親しんでもらうとともに、良い作品を作る基本を身につけ、それを広めるようにすることが目的だったと思います。

私もこれまで何回か「作る会」に参加し、綿詰め作業のお手伝いしてまいりましたが、今回の講習では、型取り、切断、ミシン、アイロン、綿詰め、かがりの工程を一貫して経験させてもらい、各工程の肝となる部分を少しばかり会得することが出来ました。

ただ、何よりも印象に残ったのは、そこで交わされた先輩諸氏との会話が、けして難しい技術論などではなく、「心をこめて」、「使う人の気持ちになって」、「一つひとつ」、「丁寧に」などというごく普通の言葉だったことです。

人間とは不思議なもので多くの人達と作業をしていますと、どうしても人より速く、人より沢山という競争心のようなものが沸いてきますし、時には作品の上に自分の個性を表現したいというような誘惑にも駆られるわけですが、それでは良い仕事はなかなかできないようです。

時間をかけて細心に気配りしながらも結果的には使う側の自由な要求にこたえられるシンプルな美しさ、それを何気なく作り出すことが出来れば、「悟りが開けた」ということになるのではないでしょうか。そんなことも考えさせられた講習会でした。

（会員
中村　禎良）

▲4月15日例会後
ドールをつくる会を開催しました。

報告します。

マカオに行くには勿論直行便もありますが、香港経由で約１時間高速フェリーに乗っていくのが一般的のようです。マカオは古くからのポルトガルの植民地であり1999年に中国に返還されてからは一国二制度の下、香港と同様比較的自由な経済制度が維持されています。主たる産業は観光とカジノで、観光地としては古いポルトガル統治時代の町並みが歴史的世界遺産としてユネスコに登録され多くの観光客を惹きつけています。昨今、カジノつきリゾートホテル業の発展は著しく、売上高ではかの有名なラスベガスを既に抜いており、新しいカジノつきホテルの建設ラッシュが続いています。

研修が催されたのはザ・ベネチアンというリゾートホテルで複雑な建物の中に運河が三筋切られゴンドラを浮かべてイタリアのベニスの趣が演出されています。この運河に沿って世界の有名店やレストランが軒を並べていて、ホテルの外に出ずに何でも用が足せるような街全体を呑み込んだ巨大ホテルといえましょう。ここで丸２日間の研修が午前９時から午後５時まで続けられました。

主眼は勿論ELIMINATEに於いて目標どおりの1100万ドルを如何に達成していくかと、そのためにクラブの新設とメンバー数の増大を如何に図っていくかです。色々なイベントを企画し人の耳目を引くとか政府要人を引き込むとか様々な意見が出されました。

▲５月14日 マカオでのNZ義捐金への証書贈呈。

クラブの新設に関しては色々とタイプの違うクラブを認めることによって会費を安くし仲間に引きえるのはどうか、PTAの連合組織とタイアップしてＫ－クラブを推進すべきだとか色々な意見が出されました。

実は日本は別としてアジア太平洋地域はキワニスインターナショナルで最もクラブ数と会員数が増加している地域ですから、会員増強に関しては問題の少ない地域といえます。ヨーロッパも会員数はそこそこ伸びているようですが、地域内の主導権争いが顕在化しており問題の地域のようです。

最も問題なのはご本家米国自体のようでキワニス活動の趣旨が飽きられたのかクラブ数も会員数も減少に歯止めがかかっていないようです。こうした実情はやはり本部の幹部や地域の幹部を直接話し合って見ないと分らないことですし、逆に日本の状況を正しく理解してもらうためにも彼らに十分説明することが必要であると肌で感じた次第です。とても良い経験をさせていただきました。

（事務局長　吉田　浩二）

## ～最近の広報活動（新聞、雑誌、テレビなど）～

### ● 国際キワニス本部機関紙（2011年４月号）に第２回キワニスドール・シンポジウムの様子が掲載

**2011. 4**

昨年４月17日に開催されたキワニスドール・シンポジウムの様子が国際本部機関紙に掲載されました。

キワニスドールがどのように医療現場で活用され、不安な気持ちを抱えている子供の癒しに役立っていることはもちろん、シンポジウムに参加した医師、看護師、小児医療の関係者、キワニス会員やドールを作っている学生、ボランティアの人たちが大勢参加した様子が写真入りで大きく紹介されました。

シンポジウム終了後のドールをつくる会の綿詰めの模様も複数の写真か掲載されていますが、最年少の幼児がドール作りに精を出している姿を大きく掲載しており、印象的です。

キワニスドール・シンポジウムのことがキワニス本部の機関紙に紹介されたのは初めてのことであり、大きな関心をもって見られているということだと認識できると思います。

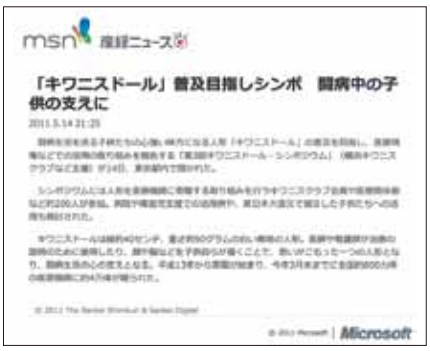
（広報委員長
古屋　俊彦）

## ● 第 3 回キワニスドール・シンポジウムが新聞に掲載　2011. 5. 14　5. 25

子ども励ます不思議な力
医療現場、避難所でも活躍
キワニスドール普及へ運動

5 月 14 日に開催されたキワニスドール・シンポジウムの様子が翌日の埼玉新聞と産経新聞神奈川版およびＭＳＮ．産経ニュースに紹介されました。

それぞれ「子どもを励ます不思議な力＜医療現現場、避難所でも活躍＞」（埼玉新聞）、「キワニスドール普及目指しシンポ〈闘病中の子どもの支えに〉」（ＭＳＮ．産経ニュース）という見出しで記事が掲載され、人形を医療機関に寄贈するキワニスクラブ会員や医療関係者など 200 人が参加し、病院や障害児支援での活用例や東日本大震災で被災した子ども達への活用の例も紹介されるなどの例も検討されたとして当日の模様を写真入りで掲載されました。　（広報委員長　古屋　俊彦）


msn 産経ニュース
「キワニスドール」普及目指しシンポ　闘病中の子供の支えに
2011.5.14 21:29
Microsoft

## ● キワニスドールがテレビに登場　2011. 4. 26

4 月 26 日（火）22 時からフジテレビのドラマ「グッドライフ」にキワニスドールが登場しました。これは、キワニスドール・シンポジウム等でご参加いただいている国立成育医療研究センターチャイルドライフスペシャリストの相吉様が助監督に推奨されたことで実現したものです。
（広報委員長　古屋　俊彦）

## ●「小児看護（４月号）」に北里大学病院でのキワニスドールの活用の詳細が掲載　2011. 4

「小児看護」は小児看護の領域、関係の方々には一番読まれている雑誌ですが、４月号に北里大学の学生ボランティア「ぬいぐるみ病院部」の活動が紹介されました。

数年前に立ち上げられ、現在は 100 名を超える団体ですが、ぬいぐるみを患者に見立てて、学生が医師役・薬剤師役をそれぞれ担当し、子どもたちがぬいぐるみの保護役という設定で行う、いわゆるお医者さんごっこのほか、保健教育、食育、小児病棟での Child Doctor Hospital（CDH）の活動などを行っています。

Child Doctor Hospital（CDH）の活動は入院中の子どもを対象とした活動で、看護師、ぬいぐるみの保護者の役を学生が行い、看護師役の学生は医師役の子どもをサポートします。

この活動にキワニスドールが活用されているわけですが、CDH の目的である

①医療を怖いという対象ではなく、自分にとっての味方であるという認識が持てる

# 授業でキワニスドールをつくる！　2010. 9. 30　10. 7　11. 15　11. 29

様々な場でそして様々な方にドールを作って頂いて居ますが、高校の選択授業の一環として取り組んだ２校をご紹介します。

両校とも、ドール製作作業の全ての工程をこなして立派な完成品に仕上げ、生徒のみなさんの優しい心を子どもたちへと託してくれました。

当クラブから星、松本２名でお邪魔しました。

・東京家政学院中学高等学校

２０１０年9月３０日と１０月７日の２回（各１００分）、例年どおり「保育演習」として実施され、中野先生と生徒１６名の参加です。

注：当日の授業風景について、雑誌「Netty Land」に掲載されています。

・大妻中野高校

２０１０年１１月１５日と２９日の２クール（各２時間）、ドール作り終了後に生徒との懇談も予定に入れました。佐藤先生と参加生徒１９名です。

なお、当校は選択授業として５年前にも実施され、２回目とのこと。

生徒たちは非常にスキルも高く、２回の授業で３個仕上げた生徒もいた程です。また、キワニスクラブの活動の趣旨や現在私たちが質の良いドール、云わば病気と闘っている子どもたちにとって「抱き心地の良い」ドールづくりに取り組んでいることなど、私たちがドールに寄せる思いを良く理解して、丁寧な人形作りに取り組んでくれました。中野先生や佐藤先生のご薫陶の宜しきを強く感じた次第です。

授業の進め方は両校共おおむね同じで、

１日目、「キワニスドールのつくり方」ＤＶＤを視聴して特に注意する点を再確認、スタート、まずは型紙で布に鉛筆で縁どりしてから、ミシンがけ、そして縁どりに沿って裁断、ひっくり返してからアイロンがけへと進みます。

最初は賑やかな生徒たちも、次第に無口になり真剣な様子となって来ます。裁断にしてもミシン掛けにしても、ミスをすると手戻りが大変だということが判ったのでしょうか。３個分完了した生徒もいて、若干の個人差は出たものの、予定通り第１日目はここで終了です。

２日目は綿詰めから始まりました。綿を出来るだけ細かくちぎる、手足や頭部の隅をしっかりと詰める、ことがポイントになる旨、もう一度呼びかけてから取り掛かりました。３０分ほど経つと順次出来上がって来ます。この段階で当クラブのドールの匠、星会員の仕上がりチェックが入り、「合格！」、「手直し！」の宣告（？）の都度、教室内に生徒の嬌声が飛び交い、どうやら余裕が出て来たようです。

そして手縫いによる最終工程となり、その間再び無口な生徒に逆戻りして一心不乱の針運び、さすが被服科の勉強を経験した生徒もいて、僅かのアドバイスで素晴らしい人形を完成してくれました。

残念ながら、大妻中野高校での時間内での懇談は出来ませんでしたが、両校の先生のご好意で参加した生徒の感想文を頂きました。

・子どもたちの為に自ら人形を作れたことが良い経験になった、

・子どもたちの手に渡ると思うと緊張したが、出来上がったら愛着が湧いた、

・不器用だけど気持ちだけは込めました、

・大学受験後、落ち着いたらボランティアをしてみたい、

などなど。

初体験のドールづくりと云うボランティア活動を通じ、彼女たちが人の笑顔に役立つ行いを成したことへの満足感を少しでも味わって貰えたとしたら大変嬉しく思いますし、また彼女たちの心にボランティアについての意識の種を一粒でも蒔くことが出来たとしたら、是非未来に大きく開いて欲しいと、心から願うものです。

（ボランティア活動委員長　松本　一紀）

▲これがキワニスドール

▲型紙

▲布の準備をするキワニスクラブの方と中野先生

▲キワニスのタグも合わせて縫うことの確認中

▲少しずつ形になってきた！

▲もう少しで形ができます

▲協力して裁断の作戦会議

▲真剣に縫い合わせます

◀「Netty Land」2010年11月号 p53より

# キワニスドールをつくる会

ボランティア活動委員会とKファミリー委員会が中心になり、会員・パートナーの参加を得て多くの看護専門学校や大学、高校などを訪問し、ボランティア活動グループと連携しながら「キワニスドールをつくる会」を開催しています。写真でその一部をご紹介します。
（広報委員長　古屋俊彦）

▲広尾看護専門学校

▲板橋看護専門学校

▲荏原看護専門学校

▲田園調布学園

・広尾看護専門学校（2010.10/16）
・板橋看護専門学校（2010.10/30）
・荏原看護専門学校（2010.10/13）
・学習院女子部（2010.12/14）
・田園調布学園（2011.1/22）

小児病棟で
子どもたちを見守る
小さな天使

## 「キワニスドールをつくる会」のお誘い

● 田園調布学園（2011. 6/18）

# ～ボランティア活動に参加して～

## なまけもの会員のドールづくり参加　2010. 11. 13

数年前の新入会員オリエンテーションに出席した際、キワニスドールのつくり方を教えていただいたものの、その後のドールづくりには熱意を欠く会員であったことを白状しなければなりません。ドールの意義についての認識不足とボランティア活動に参加することへの「照れ」のようなものがあったためでしょうか。

それでも昨年4月の第二回ドール・シンポジウムに出席してみたところ、病気のこどもたちがキワニスドールに慰められ励まされていることなどを、はじめて体系的に教えられた次第です。その後は「つくる会」への案内も目に通すようにはなりましたが、週末に横浜郊外からわざわざ都心部まで出かけて行くことには、なお腰が重いままでした。

昨年末に、しかし、いくつかの看護学校での「つくる会」の案内が目にとまり、そのうち東急沿線の一校は自宅からもそう遠くないので、ものは試しとばかりに初めて参加してみました。松本ボランティア委員長、菅野会員ご夫妻はじめ練達の参加者に混じり、荏原看護学校の生徒さんたちや学園祭見物の若者とともに、見よう見まねでドールづくりをしました。こちらも数少ない経験しかなかったのですが、若い人たちに「こうした方がいいですよ」と（上から目線で？）多少は教えてあげられたことも、（内心は冷や汗をかきながらですが）私にとっては新鮮な体験でした。我々の年代からは一瞥したところ顰蹙をかいそうな格好の若者も、真剣に人形をこしらえている姿を見ていると、外見だけで中身を判断してはいけないなあ、と反省させられました。あっという間の二時間でしたが、（その後の学園祭会場での昼食も含めて）充実した半日をすごせたことから、これからもまた気が向いたら（失礼！）ときおりは参加してみようかと思わされました。

蛇足ながら、東京都立荏原看護専門学校は、看護師を養成するため都が設立した三年制専修学校七校のひとつで、11月13日（土）の当日は学校祭「白灯祭」行事の一環としてドールづくりが催されたものでした。明るく穏やかで誠実な校風を謳っていますが、北海道から沖縄まで全国各地から集まった生徒さんたちのたたずまいや校内の雰囲気からも、そのように感じられました。なお、昨秋から年初にかけて広尾、板橋、荏原の各看護専門学校と学習院女子部、田園調布学園でキワニスドールをつくる会が催されたそうです。

熱心にボランティア奉仕されている会員がたにはまことに申し訳ないのですが、当方のように積極性に欠ける怠惰な人間としては、これからも片手間でできるささやかな社会貢献を、三日坊主にならないよう細く長く続けていきたいものです。

（国際委員長　広畑　史朗）

# ～最近の広報活動（記事掲載、ラジオ、インターネットなど）～

## 北里前会長がラジオ（ラジオ NIKKEI）出演　2011. 2. 12

北里前会長がラジオ NIKKEI に出演しました。

2月12日（土）のラジオ NIKKEI の投資家への情報提供・インタビュー番組「夢企業探訪」（毎週土曜9時―9時30分）に30分間出演しました。

内容は主として、北里さんが会長を務められる BT の事業戦略やグローバルビジネスの動きやこれからの IT の世界の展望が中心ですが、後半部分でキワニスクラブの活動について聞かれ、その生い立ち、日本でのクラブにおける日常の会員活動、キワニスドール等による子ども支援の活動、これからの Eliminate Project による破傷風撲滅運動の計画などについても熱く語られました。

放送内容は、パソコン、携帯等で、聞くことが出来ます。次の Website でラジオ NIKKEI「夢企業探訪」30分間の放送内容を聞くことができます。

http://market.radionikkei.jp/yume/

是非ご視聴ください。

（広報委員長　古屋　俊彦）

## 「Netty Land」にキワニスドール作成の保育演習の様子が掲載（2010年11月号）

東京家政学院と大妻中野高校では選択授業の一環としてキワニスドール作りが行われ、星会員（キワニスドール・シニアアドバイザー）と松本会員（ボランティア活動委員長）が参加しました。

その様子はこの活動レポートの3ページの「授業でキワニスドールをつくる！」で紹介されておりますが、東京家政学院の高校三年生の「保育演習」の模様が「Netty Land」に掲載されたものです。

キワニスドール作成について型紙からの縁取り、ミシン掛け、アイロンがけ、綿詰めから完成までの作業の様子が写真で紹介掲載されました。

キワニスクラブのことにも言及されており、今後キワニスドールが他の学校の授業の中にも取り入れられて行くことを期待したいと思います。

※「Netty land」は私立・国立中高一貫の魅力を紹介するフリーマガジンです。

（広報委員長　古屋　俊彦）

## 「日本経済新聞（夕刊）」にキワニスドールの写真掲載　2010. 11. 25

2010年11月25日の日本経済新聞（夕刊）の医療（らいふプラス）の特集ページに「子供の心どうケア」と題して親のがん発病を知った多くの子供が誤った自責の念や過度の不安を抱えるなどの心の傷を抱えているとの調査結果があるが、医師も患者本人も治療に手一杯で家族にまで気が回らないことが多い実態を指摘している。

こうしたことから厚生労働省では子供のためのケアプログラムを作り始めた動きなどを紹介した内容で、その中に写真でプログラムの一つに「がん治療につい

て人形を使って学ぶ」としてキワニスドールが掲載されました。

キワニスドールの利用のされ方の新しい方向を示しているように感じられました。

（広報委員長　古屋　俊彦）

## 東京ベイ・浦安市川医療センターの「スタッフ募集ビデオ」にキワニスドールが登場

東京ベイ・浦安市川医療センターでは来年四月に新病院が開院される予定ですが、そのためのスタッフ募集ビデオを作製しました。

その中でキワニスドールを使った実際の画像で子供たちの心の支えとして実際に使われていることが紹介されています。

こういった場面でキワニスドールがが紹介されていることは大変心強く感じる次第です。

同センター看護部の香西ひろみさんから連絡いただきました。下記にアクセスするとスタッフ募集ビデオを視聴できます。

h　://www. ou ube.com/wa ch?v=zL2C nf1Sd0

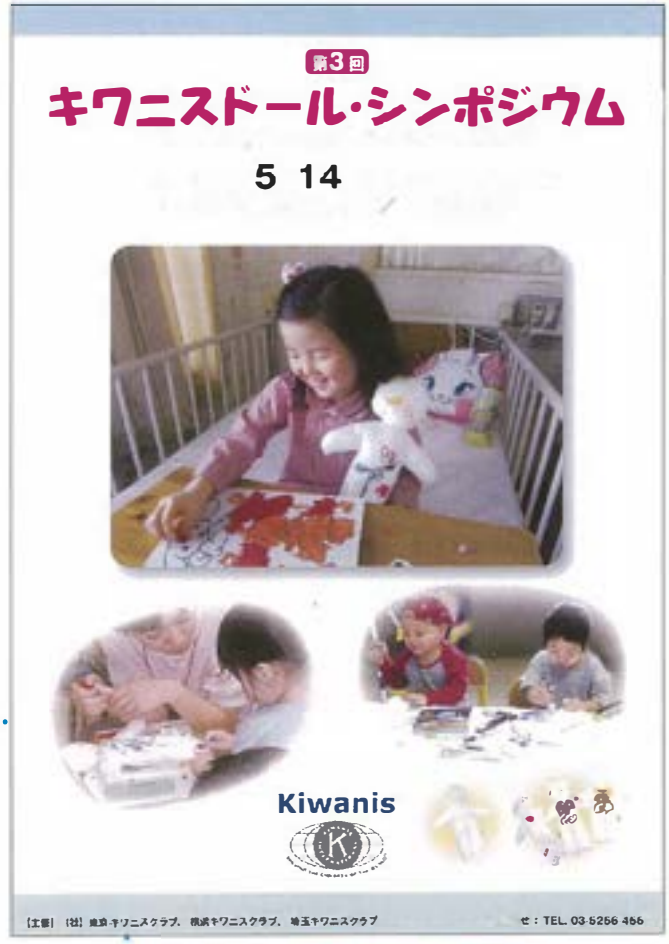
（広報委員長　古屋　俊彦）

## 学習院女子中等科・高等科の同窓会会報にキワニスドールについて寄稿（堀井副会長）

学習院女子中等科・高等科の同窓会「常盤会」の会報「ふかみどり」に「キワニスドールをご存知ですか?」と題して、堀井副会長が寄稿されました。

キワニスドールの紹介から、いろいろな場面での使われ方、自分の作成体験をはじめキワニスクラブの取り組み状況、これまでの２回にわたるキワニスドール・シンポジウムなどについても触れ、ボランティア団体としてのキワニスクラブそのものについても読まれた方々の理解を得ていただくことに大いに資しているものと思います。　（広報委員長　古屋　俊彦）

## 「第３回キワニスドール・シンポジウム開催のお知らせ」




日

場

主　　キ　スク
　　ス　ブ
　　埼玉キワニスクラブ

参加費：無料

キワニスドールを作って下さる方々、

▼昨年のキワニスドール・シンポジウムの様子

## キワニスドールをつくる会　2010.6.19　7.3　7.13

▼昭和女子大学での「ドールをつくる会」

Kファミリー、ボランティア活動両委員会の共催で、「ドールをつくる会」が開催されました。

**＜定例のつくる会＞**

・6月19日（土）田園調布学園

今年2回目のドールをつくる会です。参加者は、田園調布学園生徒･父兄39名、キワニス関係17名(会員8名)と、盛会でした。ドール完成は23個です。

・7月3日（土）昭和女子大学

学生･教授18名、キワニス関係8名（会員6名）で、経験豊かなみなさんの手さばきの結果、32個の完成を見ました。

それぞれご参加いただきました多くのみなさま、有難うございました。

**＜初めての講習会＞**

・7月13日（火）女子美術大学院

アートデザインのヒーリング表現領域の勉強をされている教授と学生のみなさん 11名を対象とした「ドールに関する講習会」として開催しました。（参加：西村、松本）

今回はボランティア活動に携わる熱心な一人の学生によって実現したドールつくりの体験会でしたが、どちらかと言えば製作終了後の懇談会に大きな成果が有ったように思えます。山野教授は、ヒーリングの視点から病院などの小児医療環境とドールとのコラボの方策を模索していきたい、と発言されましたし、学生からは、医療現場での状況をはじめて聞いたが、ドールへの子どもたちの思いが伝わった、病気の子どもたちに実際に手渡されるドールつくりが体験出来て良かった、ドールを利用せざるを得ない子どもたちが無くなることを願う、などの感想が出されました。

ボランティア活動とは全く無縁に思えるヒーリングデザイン領域とドール活用との相乗作用によって、子どもたちへの癒し効果が更に高まるような工夫が早く実現して欲しいものです。

（ボランティア活動委員長　松本　一紀）

## 初めてのキワニスドールをつくる会～目黒星美学園　2010.8.27

4月17日のキワニスドールシンポジュウムに参加された目黒星美学園の先生から、ボランティア活動に参加している生徒へキワニスドールの紹介をして欲しいとのご依頼をいただき、6月14日、守屋Kファミリー委員長と2名で学園を訪問しました。

先生方やボランティア活動サークルであるアグネス会メンバーの生徒20名のみなさんに、「キワニスクラブとは」、「キワニスドールとは」について説明、その後質疑･応答となりました。約1時間にわたる説明と意見交換でしたが、みなさん非常に熱心で、ドール製作の趣旨や病気治療中の子どもたちにとってのドールの意味合いなど、理解を深めていただけたように思います。

説明会の終了後、校長先生から実際にやってみましょう、とのご提案をいただき、「ドールつくりの会」を8月27日に実施することで決定しました。

そして当日、生徒18名、指導の子田先生ほか2名の先生方、キワニス会員とご家族6名の参加を得て、いつも通り「ドールのつくり方」DVDを視聴した後、星アドバイザーから留意点について解説、一斉にスタートしました。

生徒のみなさんは今回が初めての体験にも拘わらず、綿詰めとかがり縫いまでを仕上げる約束でしたので、予定時間を少々オーバーしたものの、全員が見事に責任完遂、しかも全体として非常に良い仕上がりで、今年度モットーとしている「品質の良いドールつくり」に沿った完成品となりました。

終了後、子田先生から夏休みなどを利用して継続していきたい、また青少年シンポジュウムには生徒も参加させたいともおっしゃっていただきました。

ドールを通して実現した新しい繋がりを発展継続できるよう、しっかりと取り組んで参ります。

（ボランティア活動委員長　松本　一紀）

## ////////// マジック・パワーを秘める「キワニス・ドール」//////////

「財界」（６月２２日号）に北里前会長の随筆が似顔絵入りで掲載されました。

マジック・パワーを秘める「キワニス・ドール」と題して、病気で不安な日々を送っている子ども達を癒す不思議な力を有しているドールのことが内容の中心ですが、キワニスクラブの紹介もされており、ドールは会員の一人ひとりが丹念に心をこめて仕上げられていること、さらにはボランティア活動の重要性についても書かれています。

（広報委員長　古屋　俊彦）

マジック・パワーを秘める
キワニス・ドール
北里 光雄

# キワニスドール シンポジウム

**2010.4.17**

2010 年 4 月 17 日（土）、第2回キワニスドールシンポジウムを、東京浜松町の東芝本社 39 階の会議室において、東京、横浜、埼玉のキワニスクラブ主催で開催しました。前日の夜から季節はずれの冷え込みと、昭和 44 年以来の降雪とあいにくのお天気で、お客様が予定通りいらしていただけるのか大変心配しましたが、午前中にはお天気も回復し、昨年を上回る 280 名の参加でにぎやかにシンポジウムを開始することができました。

今年は、さらに、関西北ディビジョン（神戸、京都、西宮、芦屋の4クラブ）が神戸の甲南大学で、キワニスドールシンポジウムを同時開催し、冒頭の国際キワニス日本地区小池ガバナーのご挨拶と、パネルディスカッションは関西北ディビジョンのキワニスクラブ会員も参加することが出来ました。

プログラムは日本赤十字看護大学の筒井真優美教授による「日本における子どもと家族看護の現状と課題」の講演、入院中や、治療中の子どもたちとあそぶ「おもちゃセラピスト」の荻須洋子様の講演、現場でキワニスドールを愛用してくださっている看護師、チャイルドライフ・スペシャリストがパネリストとして、それぞれの現場における事例をパワーポイントを使ってわかりやすく説明してくださいました。会場には、看護関係の参加者も多く、皆さん熱心にメモをとって聴いていらっしゃいました。

シンポジウムの最後は鹿児島から来ていただいた女優たぬきさんによるキワニスドールを題材にした「一人芝居」でした。キワニスドールを受け取った子どもの気持ちを表現したパフォーマンスに参加者一同すっかり引きつけられ、涙を流している方も多く見られました。たぬきさんには、鹿児島クラブのチャーターナイトに引き続き、キワニスドールの一人芝居をお願いしましたが、キワニスドールと子どもへの温かい気持ちがしっかり伝わりました。

約2時間半にわたるシンポジウムが無事終了し、次には会場の設定を変えて、「ドールをつくる会」となりました。日ごろドールを作っている会員やボランティアの皆さんや、キワニスドールを初めて作ると言う方たちが一堂に会し、皆さんで綿詰め、仕上げのプロセスを体験しました。 1時間程度の体験でしたが、約 200 個の人形が完成しました。ここで作られたドールは、後日、東京キワニスクラブの会員が仕上がり状況を確認し、合格したドールは、さまざまな病院へ巣立っていきました。

おかげさまで、今年のシンポジウムも好評を頂き、参加者からのアンケートでは、ほぼ全員の方が、「良かった」と評価してくださいました。

アンケートでいただいた、参加者の声をご紹介いたします。

**●ドールを使う立場から**

1. 小さな子どもに説明することの大切さを知りました。不安な気持ちをかかえている子ども達に癒しをキワニスドールで与えること、そのことが免疫力を上げ、死亡率を下げ治ることに向かっていくことを理解しました。
2. 現場にてキワニスドールが実際にどのように使われているのか、具体的なお話が聞けて良かった。子

ども達にとってドールが母親、友人、様々な役割をもって、子ども達を支えていることに感激しました。

3. パネルディスカッションで自分の病院以外の病院でのキワニスドールの使い方がわかり非常にためになった。当院でも取り組むことができたらと思った。

●ドールを作る立場から

1. 病院で白い天使が使われることが病気の子ども達の不安が軽減されている、そのことを知らされ、作っている者の幸せを感じました。「元気になって」と心を込めて作っています。
2. 数年前に読売新聞の記事を読み、一人で参加させていただき、1年に僅かのお人形しかできませんが、少しでもお子さん、病院の方々の援助が出来ればよいと考えています。自分の力が続く限り、継続して参ります。今回妹も初参加いたしましたが、喜んでいます。
3. 職場でキワニスドールがどのように使われているのか知ることができてよかった。また看護師だけでなく、保育士やチャイルドライフ・スペシャリスト、おもちゃコンサルタントなど多くの人が興味を持ち参加していることはとても子どもの発達に役に立つと思います。これからもキワニスの運動、活動が広がっていくと良いと思いました。

今年も大勢の方にキワニスドールの果たす役割をお伝えすることが出来ました。ご協力いただいた皆様に心から感謝を申しあげたいと思います。

（副会長　堀井　紀壬子）

## キワニスドール製作ＤＶＤの作成

キワニスドールの製作の準備から完成までの工程をわかりやすく映像で説明したDVDが完成しました。

キワニスドール製作に携わる方々（メンバー、ボランティアなど）およびこれから製作にご協力いただける方々の参考にしていただけるとともに、病院で小児科のお医者さんや看護師さんにキワニスドールがどのように作られているかを理解いただけることにも役立つものと思います。

キワニスドールの紹介から始まり、作業の事前準備、製作の各工程（人形の型取り、ミシン掛け、裁断、表返しとアイロン掛け、綿詰め、かがり縫い）、病院での使われ方も含めて、キワニスドールのことを知ることができます。（全体で12分程度）

写真は撮影風景です。（広報委員長　古屋　俊彦）

## キワニスドールをつくる会　2010.1.23

### 皆で楽しくドールを沢山作りました

Ｋファミリー委員会とボランティア活動委員会の共催で今年最初の「ドールをつくる会」が1月23日（土）田園調布学園で開かれました。当日は快晴にめぐまれ、朝の10時から同学園の生徒37名と指導の間瀬より子先生はじめ11名のキワニス会員とその家族が約二時間かけてドール作りに取り組みました。

はじめにドール・シニアーアドバイザーの星会員によるドールの作り方の解説があり、その後でいっせいに作製に入りましたが、多くの生徒たちが経験者だったようで手際よくドールづくりが出来ました。間瀬先生も熱心に指導して下さりキワニスの輪が広がりました。約二時間で50個のドールをみんなで作りましたが、ご褒美のドールピンバッジを手にした嬉しそうな生徒たちの顔がとても印象的でした。これからももっと多くの会員や家族がドールづくりに参加いただき、全国の小児病棟で待っている子ども達にドールが届けられるようにしたいものです。

（Ｋファミリー委員長　守屋　充男）

# キワニスドールをつくる会（TEPCO 銀座館）
**2009. 11. 21 / 12. 12**

**皆でドールを沢山作りました**

Kファミリー委員会とボランティア活動委員会は共同してキワニスドールの製作会を昨年11月21日と12月12日に2回続けて開催しました。2回とも銀座のTEPCO銀座館を会場に開催しましたが多くの学生団体とキワニス会員やその関係者の参加があり大盛会でした。11月21日は総勢61名のうち26名がキワニス会員と関係者で、学校関係（7団体）からは35名が参加してわずか2時間足らずの間に脇とじが出来なかった15個を含めて総数91個のドールを作ることが出来ました。

12月12日は明治学院大学のJUNKOアソシエーションの学生を中心に開催しましたが、総参加者39名のうちキワニス会員とその関係者が24名にのぼり学生の参加者を上回る盛況で総数52個（11個は未完）が出来上がりました。

学生や生徒さんたちもドール作成の経験者が多くなり、また会員や関係の方々もドールづくりの腕前が上がって大変なごやかに楽しく作ることが出来ました。

キワニスドールも次第に知名度が上がって需要が供給を上回る状態になってきましたので会員やその関係者によるドールづくりへの積極的な参加は大変喜ばしいことです。

今年は1月23日（土）の午前中いっぱい田園調布学園での「つくる会」が予定されており、また4月17日には昨年に引き続き第2回目の「キワニスドールシンポジウム」が東芝本社会議室で開かれます。ますます多くの会員やご家族や関係の方々の参加を期待しております。

（Kファミリー委員長　守屋）

## キワニスドール寄贈（東京ベイ浦安市川医療センター）
**2009.12. 3**

**キワニスドールを携えご訪問**

生憎と雨になってしまった12月3日（木）の午前、浦安市にある東京ベイ・浦安市川医療センターへお邪魔しました。

看護部参与の風間様にお会いして、５０個のキワニスドールを直接お渡しするのが目的です。
風間様は最近まで仙台市の医療機関に勤務されていて、こちらに移られたそうですが、以前から小児看護のプレパレーションの必要性を強く感じておられ、今回を機に新勤務先である現病院で、先頭に立ってその充実を進めて行かれようとお考えになって居られるとのこと。まず具体的に出来るところから始めようと、東京キワニスクラブへご連絡を下さったそうです。

プレパレーションに関する資料なども含め着々と準備されておられて、これからの計画についてのお話も伺いました。

たまたま、当医療センターは建て替え予定になっており、３年後の新施設になったタイミングで小児医療におけるプレパレーションの充実を実現したいとのお考えで、それまでに、様々なツールやシステムについて試行しつつ、しっかりとした仕組みを築いて行きたいとのことです。お話の中で、今後率直な情報交換をさせていただくお約束も出来ました。大切にして参りたいと思います。

これからも医療現場に携わるみなさんのお話を直接お伺いしながら、ドールをどのようにご提供すれば喜んでいただけるか、私たちの目標を明確にしてドール製作に励みたいもの、と感じながら帰途につきました。
（ボランティア活動委員長　松本）

## シニアアドバイザーの依嘱
**2009. 10. 2**

**ホームページ・シニアアドバイザー**
**栗山　勁会員**
**キワニスドール・シニアアドバイザー**
**星　利樹会員**

10月２日の定例役員会において栗山勁会員がホームページ・シニアアドバイザー、星利樹会員がキワニスドール・シニアアドバイザーに依嘱されました。
栗山会員はクラブの内外への広報に重要な役割のある東京キワニスクラブのホームページの立ち上げを自らやっていただいていますが、今後もそのフォロー、内容の更新・修正にもその知見と経験・ノウハウを駆使していただけるものと思います。

星会員はキワニスドールづくりの達人であり、さまざまなドールをつくる会でも講師役を務めていただいており、また、ドール作成の全工程を熟知されておられます。ドール作成について会員への指導はもとより、学生のサークルなどさまざまな場面での指導と普及に引き続きご尽力いただけるものと思います。
（広報委員長　古屋）

## 今後の予定

### ●「キワニスドールをつくる会のお知らせ」

今後のドールをつくる会の予定は、次の通りです。

日時：２０１０年1月２３日（土）　9：５５－１２：００

場所：田園調布学園
　　東急東横線・目黒線「田園調布」駅より
　　徒歩８分

正面玄関（環八側）内に９時５５分頃までにお出かけ下さい。

ご家族、ご友人などをお誘いいただき多数のご参加をお願いいたします。
ご参加いただける方は、1月１５日までに事務局宛お申し出下さい。
ご希望の方には地図を差し上げます。
（ボランティア活動委員長　松本）

## キワニスドールの使い方

キワニスドール（キワニスクラブで製作した人形）は、病院で幼い患者さんに、これからどんな治療をしていくのか説明するときなどにも使われます。傷口の縫合や、酸素マスクを使用しなければならないような場合、お子さんは驚き緊張して怯えてしまいますが、キワニスドールを使って説明されると、これから受ける治療の内容がよく判って、怖さや不安が軽減されるそうです。

子ども達はキワニスドールに注射をしたり、時にはお医者さん・看護師さんに教えて貰いながら手術の真似をしたりして、キワニスドール相手の「ごっこ」遊びをしています。人形を身代わりにこれから受ける治療を体験させると、子ども達の恐怖が和らぎ、治療を受け入れやすくなるそうです。

キワニスドールが真っ白でノッペラボウなのは、子ども達が好きな色を塗り、顔や洋服を描いて遊ぶことができるように、という工夫をしているからです。大人でも病院は厭な所です。病気の子ども達にとってはなお更です。治療は苦痛を伴いますし、見知らぬ環境におかれて子ども達は怯えています。

キワニスドールは、痛くて怖い外来での治療や入院生活を少しでも楽しくできたらという、特別な玩具なのです。

## キワニスドールの報道と PR 活動

日本地区で初めて、東京キワニスクラブでスタートしたキワニスドールは、2003 年に NHK ラジオで全国放送され、また雑誌では、日本フィランソロピー協会の機関誌や、2004 年には診断と治療社の「チャイルドヘルス」12 月号、2006 年 3 月に医療関係専門誌「メディカル朝日」2006 年 3 月号にも掲載されました。

2005 年 3 月 20 日、「キワニスドール」が読売新聞で全国に紹介され、全国の読者から大きな反響がありました。また、2005 年 8 月 27 日の 13:00、キワニスドールが 1 時間のドキュメンタリー番組として、BS 朝日から全国に放映されました。東京キワニスクラブでは、この放映番組を基に 20 分間にダイジェストした PR 版（日本語及び英語版 VTR 及び DVD）を制作して、キワニスドールの普及活動に力を入れています。2009 年 4 月 4 日にはキワニスドールシンポジウムを東芝本社 39F 会議室にて 250 名の参加を得て開催、ドールをつくる喜び、看護師、医師、看護教育の立場からドールの使い方の報告があり、現場の生の声を聞く機会を得ました。このときの様子を約 16 分のダイジェスト版 DVD にして、希望の方に差し上げています。キワニスドールの活動は東京キワニスクラブのホームページでも紹介していますので、ご覧ください。

http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo

## キワニスクラブとは

キワニスクラブは、"世界の子どもたちのために"を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。１９９０年からは、特に幼い子どものための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉 "Num-Kee-Wan-is"（みんな一緒に集まる）に由来します。

キワニスクラブは、１９１５年1月２１日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、１９６３年にはヨーロッパ３都市に広がり、現在世界の約９０ヶ国、８，０００のクラブ、約６０万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが１９６４年1月２４日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、新宿、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分の順に生まれ、現在２８のクラブで会員は約1，６００名で活動しています。東京キワニスクラブは、１９６７年2月２７日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、１９８８年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに１９９４年に北欧にも伝播しました。日本地区では２００１年１１月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

**社団法人 東京キワニスクラブ**　会長 北里 光司郎　〒101－0047 千代田区内神田２－３－２ 米山ビル
Tel：03－5256－4567　Fax：03－5256－0080　e-mail: tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp　URL: http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo